

Viṣṇusahasranāma 『ヴィシュヌ千名』

— 翻刻・和訳・神名索引 —

古 宇 田 亮 修

はじめに

インドの宗教において、神や仏の名前を称える称名という実践は、西暦紀元頃より現在に至る長い間、重要な地位を占めてきた。本稿では仏教に関しては考察の対象から除外し、ヒンドウイズムに限定して論じることとするが、その信仰対象としては、紀元後から現在に至るまで、ヴィシュヌ神（しばしばクリシュナ神と同一視される）とシヴァ神が二大柱であったとあってよからう。そのヴィシュヌ神の名前・称号・別名を集めて讃歌にしたテキストが、Viṣṇusahasranāma[-stotra]（略号 Vsn）『ヴィシュヌ千名（讃歌）』である。また、シヴァ神に関しても同様の Śivasahasranāma 『シヴァ千名』というテキストが現存し、流布している。但し、「千名」といっても、Vsn においては重複を含めた延べの名称数が 1000 であるため、重複を省くと筆者のカウントでは 876 であった。

Vsn の神名列挙部分は 107 偈より成るが、通常、その前後にも文章が付されて出版されている。Vsn は、インドの二大叙事詩の一つである Mahābhārata（略号 MBhār）に含まれて伝承されてきたが、所謂批判的校訂版（13, 135, 1-142）においては、神名の前に 13 偈、後に 22 偈が存在する。そして、単行本として出版されている Vsn には、さらに多くの文が付与されていることが多い。

Vsn の著述年代に関しては、MBhār 編纂の経緯が歴史学的には殆ど未解明のため、全く不明であるといわざるを得ない。おそらく MBhār 編纂の中ではかなり遅い段階で編入されたのであろうが、その年代を特定することは容易でない。

但し、ヒンドウイズムにおける歴史的な重要性は、Bhagavadgītā, Bhāgavatapurāṇa, Devīmāhātmya 等と並んで、大量の写本が残存していることからしても明らかであろう。また、Vsn は、Pañcaratnagītā 『五宝の歌』の中にも含まれている。Pañca-

ratnagītā とは、Bhagavadgītā, Vsn, Bhīṣmastavarāja, Anusmṛti, Gajendramokṣa という五つの韻文から成る読誦聖典であり、これも現代に至るまで広く流布してきたテキスト¹である。

尚、本邦における Vsn の研究は、刊本の簡単な紹介を含む坂田（2005）を除いて見出すことができなかつたので、ここに翻刻と和訳を提示することも何らかの意義があるものと思われる。

ヴィシュヌは、現存するインド・アーリヤ語最古の文献といえる R̥gveda にも登場する神であり、ヴィシュヌが三步で世界の支配権を得る (RV I 154) という後世に展開されるヴィシュヌ信仰の重要なモチーフが既に現れている。尚、R̥gveda 以降の Veda 文献、MBhār 等におけるヴィシュヌの諸相については、Gonda (1954) に詳述されているのでここでは省略する²。

1. Bhagavadguṇa-Darpaṇa による名前の分類について

Ayyangar は、Śrī-Parāśara-Bhaṭṭar の Bhagavadguṇa-Darpaṇa に従って、Vsn における神名の配列には意味があるという考えに基づき、Skt. および英語で説明を加えている (Ay. 1990: ix-xiv) ので、ここにそれを意識しておくことにする³。その分類の当否ならびにその解釈がどこまで歴史的に遡れるかは不明であるが、ヒンドウイズムにおける解釈の一つとして紹介する次第である。

(1) 1-122: 最高の本質 (parasvarūpa-)

1-4: ヴィシュヌという語によって述べられるべき一切の主宰者の円満性 (viṣṇu-śabda-vācya-sarveśvara-pūrṇatva-)

5-9: 一切者 (sarva-), シェーシャ (大地を支える蛇にして Viṣṇu の寢床) を有すること (śeṣitva-), 実現者 (upapādaka-)

¹ 参考文献に、L. と N. の 2 本を挙げておいた。

² 尚、叙事詩やプラーナ文献における Viṣṇu の顕現／化身については、Oki (2022) を参照されたい。

³ 尚、神名の通し番号は、本稿の通し番号とずれがあると考えられるが、煩瑣となるため、Ay. のまま表記したことに注意されたい。

10-11: 残りの事物という欠陥のない最高の靈魂 (śeṣa-vastu-doṣa-hīna-paramātman-)

12-17: 解脱者たちの最高の帰趨 (muktānāṃ paramāgati-)

18-19: 解脱の方策 (mukti-upāya-)

20: 根本元質と真人の統制者 (pradhāna-puruṣa-niyāmaka-)

21-64: 特性がないことの表現 (vailakṣaṇya-vācaka-)

65-88: 束縛者, 解脱者, 恒常者が異なることの説明 (baddha-mukta-nitya-bhinnatva-nirūpaka-)

89-100: 方策を本質とする者, 幸福感を本質とする者 (upāya-svarūpin-, sukha-svarūpin-)

101-122: 拠り所となる, [親としての] 愛情を抱く者 (āśrita-vatsala-)

(2) 123-146: 顕現の本質 (vyūha-svarūpa-)

(3) 147-629: 偉大さの本質, あらゆる姿をとる者 (vibhava-svarūpa-, viśvarūpa-)

147-152: 共通属性 (sāmānya-dharma-)

153-164: 小さな人という化身 (vāmana-avatāra-)

165-170: 悪人の折伏者, 教養人の保護者 (duṣṭa-nigraha-, śiṣṭa-paripālana-)

171-187: 感覚器官を超える等の無限のめでたい美徳に満ちた者 (atīndriyatvādi-ananta-kalyāna-guṇa-paripūrṇa-)

188-194: ハンサ鳥という化身 (haṃsa-avatāra-)

195-199: 蓮を臍にもつ者 (padma-nābha-)

200-210: 人獅子という化身 (nṛsimha-avatāra-)

211-225: 魚という化身 (matsya-avatāra-)

226-247: 原人讃歌とウパニシャッドを思い起こさせる者 (puruṣasūkta-upaniṣat-pratipādita-)

248-269: 主による生物・無生物に対するはたらき

270-300: 持ち物によって靈我 (jīva-) の願望を叶える者

301-314: イチジクの葉に寝る者 (vaṭa-patra-śāyin-)

315-322: ブリグの後裔であるラ-マ (=パラシュラ-マ) (bhārgya-rāma-)

- 323-333: 亀という化身 (kūrma_avatāra-)
- 334-361: ヴァースデーヴァの美德・美麗・偉大さの現れ (vāsudeva-guṇa-rūpa-vibhūti-)
- 362-379: ラクシュミーの主人であることの定義 (lakṣmīpatitva-lakṣaṇa-)
- 380-385: 主の意識 (cetanā-) との密接な関連と無関係さ
- 386-390: 堅固な姿をもつ者 (dhruva-mūrti-)
- 391-421: 聖ラマという化身 (śrī-rāma_avatāra-)
- 422-436: カルキという化身 (kalki_avatāra-)
- 437-450: 転変の正法を駆動させる者 (pravṛtti-dharma-pravartaka-)
- 451-456: 帰滅の正法を駆動させる者 (nivṛtti-dharma-pravartaka-)
- 457-470: 乳海を攪拌する者 (amṛta-manthana-)
- 471-502: ヴェーダによって規定された祭式を推進する者 (veda-vihita-karma-pravartaka-)
- 503-513: 聖ラマという化身の美点 (śrīrāma_avatāra-vaiśiṣṭya-)
- 514-519: sāvata 派教義の実践者を守護する者 (bhāgavata-rakṣaka-)
- 520-523: 亀という化身の美点 (kūrma_avatāra-vaiśiṣṭya-)
- 524-528: 聖音オン (praṇava-)
- 529-539: カピラ仙という化身 (kapila_avatāra-)
- 540-543: 猪という化身 (varāha_avatāra-)
- 544-568: 5つのウパニシャッドを思い起こさせる身体性 (pañca_upaniṣat-pratipādita-kāyatva-)
- 569-574: ナーラーヤナの自性と姿など (nārāyaṇa-svarūpa-rūpādi-)
- 575-580: ヴィヤーサという化身 (vyāsa_avatāra-)
- 581-606: 正法の保持者と生ける靈魂の扱い
- 607-625: 吉祥性をもたらす者 (śivatva-upapādaka-)
- (4) 630-696: 神像という化身 (arcā_avatāra-)**
- 630-660: 自ら顕現した神像の姿 (svayaṃ-vyakta_arcā-mūrti-)
- 661-664: 安立したシャクティの主という化身 (pratiṣṭhita-śaktīśa_avatāra-)

665-677: 美德の偉大さの現れの無限性 (guṇa-vibhūti_anantya-)

678-696: 愛情深さという美德の無限性 (vātsalya-guṇa_anantya-)

(5) 697-848: 主の世俗におけるはたらき

697-786: クリシュナ化身に見られるアスラ折伏 (asura-nigraha-)

787-810: ブッダ化身に見られるアスラ折伏

811-825: 天的な富を恩恵としてもたらす者 (daiṁi-sāmpad-anugraha-)

826-848: 神格を統制する者 (devatā_niyamana-)

(6) 849-879: 福満者 (bhagavat-) と靈我 (jīva-) たちの分類

849-853: ニティヤ・スーリ (nitya-sūri) たちの主

854-861: ヨーガの主 (yogīsa)

862-866: 悪人の制裁者

867-879: 純質性 (sattva-guṇa-) をもつ信者を統括する福満者 (bhagavat-)

(7) 880-911: 解脱者 (mukta-) と最高の語 (paramapada-)

880-896: 光熱力等の入り口からの解脱をもたらすこと (arcirādi-dvāra-mukti-prāpyatva-)

897-911: 解脱者 (mukta-) の味わう幸福感と天界の状態

(8) 912-945: 象王の解脱 (gajendra-mokṣa-)

(9) 946-992: 一切の種類福満者のはたらきの適用 (sarva-vidha-bhagavad-vyāpāra-prayojana-)

(10) 993-1000: 天的吉祥な姿 (divya-māṅgala-vigraha-)

2. 名前の配列について——音の反復に着目して

Vsn における名前の配列を仔細に観察してみると、似たような音や単語から成る名前がまとめられている印象がある。これは Vsn が韻文である以上、śabdālaṁkāra 〈音声の修辞法〉⁴の一種である音の反復による音楽的心地良さを狙って、作者が意図して似た音を集めていることによるのであろう。むろん音の反復は技法の一種に過ぎず、配列の全体を説明する原理ではない——韻文を

⁴ śabdālaṁkāra の定義とその実例については、松濤 (1981: 182-191) を参照のこと。

成立させる第一原理が韻律であることはいうまでもなからう——が、筆者が気づいた例を下記に列挙しておく。

1-3: v で始まる名前	209-210: guru で始まる名前
4-9: √bhū-の派生形で始まる名前	214-215: nimīṣa を含む名前
18-19: yoga で始まる名前	218-219: graṇī/grāmaṇī を含む名前
25-28: 歯擦音で始まる名前	224, 226-227: sahasra で始まる名前
31-35: bh を含む名前	236-237: pra√sad-の派生形を含む名前
43-45: dhā を含む名前	238-239: viśva で始まる名前
59-60: pra で始まる名前	241-242: sat√kr-の派生形を含む名前
65-66: prāṇa で始まる名前	245-246: nārā/nara で始まる名前
72-73: mādḥ/madh で始まる名前	249-250: śiṣṭa を含む名前
78-79: krama を含む名前	252-255: siddh で始まる名前
82-83: kṛt で始まる名前	256-263: v で始まる名前
85-87: 歯擦音で始まる名前	269-270: vasu で始まる名前
97-98: siddh で始まる名前	271-272: rūpa で終わる名前
104-105: vasu で始まる名前	291-292: √pū-の派生形で始まる名前
112-113: vṛṣ で始まる名前	294-298: kāma/kān で始まる名前
115-116: ba で始まる名前	300-301: yuga で始まる名前
123-124: sarva で始まる名前	308-310: iṣṭa を含む名前
127-128, 130-131: veda を含む名前	314-315: krodha で始まる名前
133-135: adhyakṣa で終わる名前	320-321: prāṇa で始まる名前
136-140: catur で始まる名前	327-328: skanda で始まる名前
141-143: bh で始まる名前	344-346, 348: padm で始まる名前
161-162: yama で終わる名前	350-352: rddh を含む名前
163-164: vedy/vaidy で始まる名前	360-361: lakṣ を含む名前
170-176, 180-182: mah で始まる名前	378-381: √kr-の派生形を含む名前
187-188: govind/govid で始まる名前	384-385: vyavas で始まる名前
199-203: 歯擦音で始まる名前	385-387: sthāna を含む名前

390-392: ṣṭa で終わる名前	581-582, 584, 587: √sam-の派生形を含む名前
394-395: rāma を含む名前	589-590: ku で始まる名前
398-400: √nī-の派生形を含む名前	591-593: go で始まる名前
403-404: dharma で始まる名前	594-595: vṛṣa で始まる名前
406-410: pur/pr/pr̥ で始まる名前	596-597: ni√vṛt-の派生形を含む名前
430-431: artha を含む名前	598-599: kṣe を含む名前
432-434: mahā で始まる名前	601-613: śrī/śre で始まる名前
440-441: nakṣatr で始まる名前	615-616: sva で始まる名前
442-443: kṣama/kṣāma で始まる名前	617-618: nand を含む名前
445-447: √yaj-の派生形を含む名前	620-621: ātman で終わる名前
455-460: su/sū で始まる名前	628-630: bhū で始まる名前
465-466: svā/sva で始まる名前	631-632: śoka を含む名前
468-469: naik で始まる名前	633-634: arci で始まる名前
470-472: vats で始まる名前	636-637: vi√sudh-の派生形を含む名前
475-477: dharm で始まる名前	646-647: trilok で始まる名前
478-479: sat を含む名前	648-649: keś で始まる名前
480-481: kṣara を含む名前	651-654: kām/kān で始まる名前
490-493: deva を含む名前	661-670: brahm/brāhm で始まる名前
495-496: gop で始まる名前	671-678: mahā で始まる名前
506-507: puru で始まる名前	679-683: √stu-の派生形を含む名前
526-528: nanda を含む名前	685-686: pūr で始まる名前
542-545: gu/ga で始まる名前	687-688: puṇya で始まる名前
553-554: varuṇa/vāruṇa で始まる名前	692-697: vasu/vāsu で始まる名前
558-559: bhaga で始まる名前	699-703: sad/sat で始まる名前
563-564: āditya を含む名前	712-713: darpa/dṛp で始まる名前
574-576: sām を含む名前	717-721, 723: mūrti で終わる名前
577-578: bheṣ/bhiṣ で始まる名前	733-734: loka で始まる名前

738-740: āṅga を含む名前	843-844: sv で始まる名前
745-746: cala を含む名前	849-850: yog で始まる名前
747-749: mān を含む名前	852-853: śrama を含む名前
750-751: loka を含む名前	857-858: dhanur で始まる名前
752-753, 755: medh を含む名前	859-861: daṇ/dam で始まる名前
760-761: graha で終わる名前	864-866: √yam の派生形を含む名前
765-771: catur で始まる名前	867-868: sattv/sāttv で始まる名前
775-781: dur で始まる名前	869-870: satya で始まる名前
782-783: ṅga で終わる名前	871-872, 874-875: prāy/priy/pri を含む名前
784-785: tantu を含む名前	前
786-788: karmaṇ で終わる名前	896-897: sanāt で始まる名前
788-789: kṛt で始まる名前	898-899: kapi で始まる名前
791-792: sund で始まる名前	901-905: svasti で始まる名前
803-806: mahā で始まる名前	911-914: śa/śi で始まる名前
807-809: kumud/kund で始まる名前	932-933: ananta で始まる名前
813-814: amṛt で始まる名前	946-947: jana で始まる名前
815-816: sarva で始まる名前	948-949: bhīma で始まる名前
817-818: su で始まる名前	956-962: prāṇa/prāṇa/paṇa/pramāṇa で始まる名前
820-821: śatru で始まる名前	前
827-829: sapta で始まる名前	963-964: tattva で始まる名前
832-833: bhaya で始まる名前	971-982: √yaj-の派生形で始まる名前
839-840: guṇa を含む名前	983-984: anna で始まる名前

3. 翻刻について

古代インド語の翻刻に際しては、ナーガリー（/デーヴァナーガリー）を用いる方法と、ローマ字を用いる方法という二種の様式が考えられる。周知のように、インドで出版されているテキストは、ナーガリーを用いることが殆どである。これに対し、20世紀末までの欧米や日本ではローマ字を用いることが多く

見られた。かつて欧米や日本でローマ字を用いた理由は、インド以外の国の印刷所がナーガリーの活字を有していなかったことも大きかったであろう。しかし、組版のデジタル化が進んだ現在では、その障壁は解消されており、表記法の選択は研究者の意思に任される時代が既に到来している。その結果、現在では、ナーガリーによる出版も世界に広がってきている。

そもそも、印欧語に属する古代インド語を言語学的に論じる場合に、音節文字であるナーガリーを用いることが合理的でないことは明白であろう。いうまでもなく、ナーガリーは音素単体を表示するのにわざわざ *Virāma* を使用する必要があり、単語の区切りを表示できないことも多い。その意味で湯山明が強調する⁵ように、母音と子音を平等に扱うことで音素や単語（の区切り）を表示するのに適しているローマ字が近代の学問世界にもたらした利点については、改めて認識しておく必要もあろう。

その上で、ナーガリー表記の利点についても、二点ほど挙げておくことにする。一点目は、当然ながらインドの写本類がナーガリーを始めとする音節文字で表記されてきたという歴史的経緯にある。写本を活字化する際に、ナーガリーを用いることで、(ローマ字に比べ) 写本の表記に近い形で出版できるという利点がある。そのことによって、写本の伝承や誤写について想像がし易いということは確かであろう。もう一点は、古代インド語の文献には韻文のテキストが多いが、韻文を朗唱する際に、母音と子音が結合した音節文字 (*akṣara-*) の方が発音が正確におこなえる——子音で終わる単語と母音で始まる単語の間にローマ字転写のように空白がある (例: *mām apr̥cchat*) と、誤って息を切りかねないが——だけでなく、音節 (数) を把握しやすいというのは大きな利点である。その意味で、ローマ字は、韻律によってメロディーが変わってくる韻文の朗唱には適していないということは明白である。したがって、*Vsn* のような韻文で

⁵ 湯山 (1998: 44-45) 「…しかし、よく考えてみると、インド・アーリヤ語群のような音構造をもつ言語のローマ字使用には、それなりの意味があるのだ、ということがいつのまにか忘れられてしまっていた感がある。実は批判校訂において、編者が原典を如何に理解していたかを如実に提示できるという、文献学的に極めて重要な役割を果たしているのである。…」という重要な指摘は、とりわけインド人の間では共有されていない認識であろう。

は二種の翻刻方法を併記することに意味がないわけではないが、本稿では、紙幅を無駄に費やしてもいけないので、翻刻にはローマ字のみを用いることにした。

4. 古代インド語の片仮名表記について

古代インド語の片仮名表記については、近代日本においてインド学の導入以来、種々の方式（宇井伯寿方式⁶、金倉円照方式⁷、辻直四郎方式⁸、中村元方式⁹、池田運方式¹⁰）が実践されてきているが、今回の翻訳では以下の凡例に従うことにした。

- (1) 長母音については「ー」の幅を 50% に縮小して表した。例えば、日本語で「ア」に「ー」を付すと 2 モーラの「アー」になるため、古代インド語の音声と余りにかけ離れるからである。Cardona (1994: 51) によれば、古代インド語 a, ā の発音は、それぞれ、[a], [aː] であったと推測されている¹¹。その差異を片仮名で表すことはできないため、敢えて特殊な表記を用いて読者に注意を喚起するという妥協的な方策をとらざるをえないことを予めお断りしていく次第である。例：ācāra 「ア-チャーラ」
- (2) 帯気音に関しては、片仮名では区別し難いため、波線を下に付して表記した。例：dharma 「ダルマ」；bhūta 「ブ-タ」；pratiṣṭhita 「プラティシュティタ」

⁶ 例えば、宇井 (1936: 3) は yajur-veda を「ヤヂュルゼーダ」と表記する。

⁷ 例えば、金倉 (1962: 9) は atharva-veda を「アタルブ・ヴェーダ」と表記する。

⁸ 例えば、辻 (1980: 325) は sām̐khyā を「サーンキヤ」と表記する。

⁹ 辻方式との違いを挙げれば、中村 (1996) は sām̐khyā を「サーンキヤ」と表記する。

¹⁰ Hindi を専門とする池田は、その訳書 (2006) において独自の方式を採用し、MBhār の (Hindi からの) 翻訳でも Hindi 的な読み方を多く採用している (例：janārdana 「ジャナルダン」)。Skt. の長音を写す際に音引をしばしば省略していることはある意味で評価し得る。しかしながら、それが一貫していないことは疑問であり (例えば、mahābhārata 「マハバーラト」、bhagavadgītā 「バガワッド・ギータ」等)、Hindi 的発音を重視しすぎている (最後の母音を省略することや、va を「ワ」すること等) ことは当然ながら問題である。

¹¹ インド語の専門家ではないが、神山 (2008: 162) にも、Skt. の発音が提示されている。神山の案は、Cardona の案といくつかの点で異なる箇所がある為、念のため言及しておいた。

(3) 母音の \ddot{r} に関しては、 ri と区別するため、上に丸点を加えて「リ̇」と表記した。 \ddot{r} の発音は、Cardona (1994: 51) によれば、 $[\text{æ}\ddot{r}]$ であったと推測されている。片仮名にすれば、「ウル(ツ)」とでもすべきかもしれないが、本稿では煩を避け、「リ̇」とした。尚、Cardona (*ibid.*) によれば、現代の北インド・中央インドでは、 $[\text{ri}]$ と発音されているという。

例： kartṛ 「カルトリ̇」 \Leftrightarrow hari 「ハリ̇」

(4) r を除く反舌音に関しては、傍点を加えて表記した¹²。

例： pundarikākṣa 「プンダリ-カ-ク $\dot{\text{c}}$ シャ」； spāṣṭākṣara 「スパシシュタ-ク $\dot{\text{c}}$ シャラ」

(5) la 行の音に関しても、 ra 行と区別するため、傍点を加えて表記した。

例： anila 「アニラ̇」； loka 「ローカ̇」； durlabha 「ドウルラバ̇」

(6) \acute{s} 、 \ddot{s} 、 si に関しては、それぞれ「シ̇」「シ̈̇」「スイ̇」で表記した。

例： \acute{s} śiva 「シヴァ̇」； \ddot{s} maharṣi 「マハルシ̈̇」； si siddha 「スイッダ̇」

(7) ja 行の音¹³に関しては、 ja 「ヂャ」、 $jā$ 「ヂャ-」、 ji 「ヂィ」、 $jī$ 「ヂィ-」、 jr 「ヂリ̇」、 ju 「ヂュ」、 $jū$ 「ヂュ-」、 je 「ヂェ-」、 jai 「ヂャイ」、 jo 「ヂョ-」、 jau 「ヂャウ」と表記した¹⁴。Cardona によれば、古代インド語における j の発音は、 $[\text{j}]$ (有声硬口蓋破裂音) であると推測されている¹⁵。この音を音声学的に説明すれば「ヂャ」の子音 $[\text{d}^h]$ と「ギャ」の子音 $[\text{g}^h]$ の間に調音位置がある破裂音¹⁶であり、正確にはそのどちらとも違う音であるが、現実にはどちらかに近い音に聞こえることもある。いずれにせよ、片仮名で表記することは困難な

¹² これに従えば、 Viṣṇu も「ヴィシュヌ̇」と表記すべきであるが、事情を知らない一般読者のために、本稿の題名や序文では「ヴィシュヌ」と表記したことを了解されたい。

¹³ 中村 (1987: 14) の「古代ギリシア人は、サンスクリットの j 音をギリシア文字の γ (ガンマ) で音写した。それは、その口蓋音がギリシア語に無いからであった。しかしそれと共に古代インド人の発音した j がギリシア語の γ に近かったということが解る。」という見解は、時代的背景に鑑みると、さすがの慧眼といえよう。

¹⁴ 尚、金倉円照は、20世紀前半は宇井伯寿と同じく jaina を「ヂャイナ」と写してきたが、後半は「ジャイナ」という表記に変えている。1946年に内閣より公布された「現代かなづかい」に則ったものと推測される。

¹⁵ Cardona 並びに神山 (2008: 162) は、 Skt. /j/ を $[\text{j}]$ (有声硬口蓋破裂音) とするので、ハンガリー語 /gy/ と同一の音である。

¹⁶ 加藤・安藤 (2016: 28) による。

音である。ただ、もしも ja を「ジャ」と表記すると、[dʒə]と発音される可能性が高いため、敢えて別の表記を用いた次第である——だからといって日本語の「ヂ」が [j] と発音されてきたことを意図するわけではなく、[j]を表す記号として用いたまでである。尚、Hindi では、/j/ は [dʒ] と発音される¹⁷為、インドやその他の国で Skt.の/j/ も [dʒ]と発音されることが多い。これは一例であるが、現代のインド人の Skt.発音から古代インド語の発音を推測することが危険であることはいうまでもなからう。

(8) jñā に関しては、「ギャ」と表記した。

例：jñānayoga 「ギャーナヨーガ」；yajñā 「ヤツギャ」

古代インド語における/jñā/の実際の音価は、未解明な部分が多いと考えられ、諸学者の間で種々の議論がある¹⁸。

現代のインドでは、中村 (1987: 14-15) および宮元 (1987: 35-36) の説をまとめれば、jñā は、①「ギャ (/gya/)」、②「グニャ (/gñā/)」、③「ヂニャ」、④「ニャ (/ñā/)」、⑤「ジャ (/jya/)」、⑥「ジャ (/jha/)」、⑦「ドニャ (/dñā/)」というように、地域や学者により種々の発音がなされているという¹⁹。

歴史的にみると、Skt.は教養人の間での共通語として使用されたため、単なる自然言語ではなく、エスペラント語のような人工言語的側面も大きい²⁰。そ

¹⁷ 神山 (2008: 162)。

¹⁸ 例えば、Coulson (2006: 15) は、その Skt.入門書において、以下のように述べている：“**jñā**: the pronunciation of this varies widely. In some places, for instance, it is like **gya**, in others **ḍnya**. The palatal series is derived from original velar sounds (cf. jan 'to be born' with Greek *génos*). The point about **jñ** is that it is a palatalisation so to speak *en bloc* of an original *gn*. Thus **jñā** 'to know' is connected with Latin *co-gno-scere* and English 'know'. Perhaps the most appropriate of the modern pronunciations to adopt is therefore **gnyā**, with (by adding *y* to *gn*) does crudely represent a palatalisation. また、古代インド語の/j/については、Kobayashi (2004: 52-53) に詳しい。但し、残念ながら筆者はその詳細な議論を十分に追えていない。

¹⁹ 因みに Hall (1992: 8) は、“The consonant cluster **jñ**, found in many words derived from the root **jñā** (know), can be pronounced as *nny*, or *dny*, or *gy* — but not *j-n*. Thus, the word for wisdom (*prajñā*) is pronounced *pran-nyā*, *prad-nyā*, or *pra-gyā* — but not *praj-nyā* or *praj-nā*.” と述べ、jñā が「ジュニャ [dʒnə]」や「ジュナ [dʒnə]」でないことを強調している。

²⁰ エスペラント語における創案者 L. L. ザメンホフの役割と、Skt.の文法を結果的に「固定化した」することに成功したパーニニ (Pāṇini) の役割には類似する側面が見られる。

のため、権威者の影響（例えば僧院長の母語や言語観）により、地域と時代が異なれば発音も変動するものと考えられる。第二言語として使用された中世ラテン語が、使用者の母語の影響を受けて展開してきたのと並行する現象が起きていた可能性がある。近世（18世紀初頭）の例ではあるが、Dhūṇḍirāja 著 *Gīrvānapadamañjarī* という Skt. 会話例文集でも、その例文は Marathi ならびに Hindi 方言の影響を大きく受けているという指摘がある²¹。紀元前の時代においても、Skt. が第二言語として使用された場合に同様の現象が起きていた可能性は常に念頭に置いておく必要がある²²。

ザメンホフによって完成させられた人工計画言語であるはずのエスペラント語でも、語彙や慣用という意味でのザメンホフ以降の「発展」は見られるし、Skt. でもバーニニ以降、同様の現象は生じていたであろう。エスペラント語を「自然言語」にならぶ「ひとつの言語」として扱った研究に、ロ・ジャコモ（1992）がある。その出自が自然言語であれ、人工計画言語であれ、使用されている言語には必ず発展（／変容）があるといえよう。

²¹ Deshpande (1993: 33-51) .

²² 日本人には比較的身近な初期大乘経典は、最初期においては当時の口語体に近い言語で作成されたが、時代を経るにつれて正規の Skt. に変えられていったというように説明されることが一般的である。一例を挙げれば、後に *jñāna* と表記されるようになった単語は初期大乘経典の作者によって、本来、*/ñāna/ [ɲaɲa]* 「ニャーナ」（もしくは */ñāṇa/ [ɲaṇa]*）と発音されていたと筆者は推測するものである（現に *Gāndhārī* による般若経 (Falk & Karashima (2012: 34)) では、*Gā. /prañāparamida/ (<Skt. prajñāpāramitā)*, *Anavatapta-gāthā* (Salomon (2008: 178)) では、*Gā. /ñadi/ (=Pāli ñāti- <Skt. jñāti)* という語形が確認され、*ñā/ñāna* の語形ならびに発音に関しては Pāli に近似している)。それ故に、*Saddharmapuṇḍarīka* において、ほんの少しだけ音が異なる *mahāyāna [məhəɟaɲa]* と *mahājñāna [məhəɟɲaɲa]* が掛詞として成立していたのである。後世に Skt. の形で伝承されることになった初期大乘経典は、作成当初、当時の口語で作成された（例：*ñāna*）としても、文字による伝承（大乘経典における写経の重視）の過程で Skt. の正書法に置き換える必要が生じたのであろう。というのも、Skt. においては *ñā/ñā* から始まる単語は存在しないから「*ñā* という文字を使用しているこの作者は [Skt. の] 教養がない」という批判を避けるために、*Gā./Pāli* を含む Pkt. でのみ使用される単体の *ñā* から、Skt. の *jñā* という文字に置き換えたのであろう（但し、最初から *jñā* という文字を用いた大乘経典作者が存在していた可能性を排除するわけではない）。スコイエン・コレクションに収められるグシャーナ期の八千頌般若経では、既に *jñā* の文字で書写されている例 Sander (2000: 7, 12, etc.) が見られ、この問題を考える際の歴史的資料として極めて重要である。尚、辛嶋 (1993: 137-197) は、初期大乘経典における *yāna*-と *jñāna*-の関係性について学界で初めて論じた画期的業績である。とりわけ (1993: 146) の「…いづれも *jñ-*は韻律上、位置を形成せず、MI 風に単子音として発音されていたはずである。」という指摘は重要である。しかしながら、同氏の説は、なぜ、それでは *jñā* という文字を

本稿では、/jāna/の発音に関してその全体像が解明されていないことを前提として、便宜上²³、Hindi 語や Bengali 語の話者が用いる「ギャ」を採用することとした。

(9) Visarga については、上付き文字で表記した。

例：duḥkha 「ドゥフカ」；viniḥṣṛta 「ヴィニヒスリタ」

5. 底本と翻訳について

本稿の底本としては、所謂 Critical Edition とされる MBhār (13, 135, 1-142) を用い、その読みを註で提示する場合は略号 C. を用いた。そして、底本に疑問が生じた場合のみ、他の諸本を参照することとした。

翻訳における神名については、その代表的な意味を（ ）内に記した。可能な限り、語源の意味を考慮したつもりであるが、固有名詞由来の場合、その説明が事実上不可能な場合もあった。また、複合語から成る名に関しては、複合語の解釈でいかようにも解釈が可能であるため、一つの解釈を提示したまでと了解されたい。例えば、後分に ātman- という語がきた場合、「(～という) 霊魂」と訳すこと（隠喩的用法）も可能であるし、「(～という) 霊魂をもつ者」という Bahuvrīhi で解釈することも可能である。本稿では、一読しての分かりやすさを重視して、いずれを採用するかを判断した。また、訳文中の斜線「/」は「あるいは」を意味する。

用いたのかという書記言語（綴字）と音声言語（発音）のずれを説明していないため、この問題の全体像を解明することには成功していないと思われる。また、同氏は Skt. yāna から Pkt. jāna という語形が生じ、また jñāna から Pkt. jāna という語形が生じた (1993: 145) と説明したり、「『大いなる智慧』は口語では、mahājāna と発音されていた」(2019: 324) と明言したりしているが、Pāli や Gā. で具体的な証拠がある /ñāna/ (もしくは /ñāna/) ではなく、確実な証拠の少ない /jāna/ (もしくは /jāna/) という語形を基本に据えて説明しているため、十分な説得力を持たない論証とみなされよう。かつて辛嶋先生が主催された通称 Brāhmī-club で多くのことを教わった者の一人として、突然のご逝去（その 12 日前にも丁寧な電子メールを頂戴したばかりであった）により、いまや先生の御意見を伺うことが叶わなくなったことは痛恨の極みであるが、識者によるこの主題に関する忌憚のない御批判を切に乞う次第である。

²³ インド人学者とのコミュニケーション上、一番、誤解が生じにくいという実用上の観点重視した。

尚、Śaṅkara を代表とするインド人の註釈者は、Viṣṇu の名前を伝統的な訓釈 (nirukti-) によって説明しているが、その訓釈の目的が言語学に基づいた語源説明とは全く異なる²⁴為、その多くは言語学的な疑問に答えるものではない。基本的には註釈者やその註釈を受容した人々の信仰を知るという目的で接するべき資料である。そして、インド人による Vsn の英訳も、多くの場合 Śaṅkara 等の註釈者の説に従って作成されていることが多いため、その扱いには注意が必要であろう。

²⁴ 即ち、名前に込められた秘義を知った上で称名を実践することによる功德／靈験の獲得や、Viṣṇu 神に対する信仰心の昂揚を目的としたものに他ならない。

〈参考文献〉

(一次文献ならびに略号)

- Mahābhārata (MBhār).** C. *The Mahābhārata for the First Time Critically Edited.* by V.S. Sukthankar, P. Belvalkar, P. L. Vaidya et al., Poona: Bhandarkar Oriental Institute, 1933-1966.
- Pañcaratnagītā.** L. *Pañcaratna-Gītā*, by Śrī Lakṣmīnārāyaṇa Gosvāmin, 1942.
— . N. *Pañcaratnagītā*, Mumbai: Nirṇaya-sagar Press, 1921.
- Viṣṇusahasranāma.** An. *Viṣṇusahasranāma with the Bhāṣya of Śrī Śaṅkarācārya: Translated into English in the Light of Śrī Śaṅkara's Bhāṣya*, by R. Ananthakrishna Sastry, Madras: Adyar Library and Research Centre, 1980.
— . Ay. *Śrī Viṣṇusahasranāma: Text and Commentary in English compact and concise, with suitable additions based on Śrī Parāśara Bhaṭṭar's 'Bhagavadgūṇa Darpaṇa'*, by S. Satyamurthi Ayyangar, Bangalore: Śrī Parampara Sabha, 1990.
— . J. *A Dip into Shri Vishnu Sahasranama (Śrutisāgarah)*, by Dr. H. Janardana Acharya, Madras: Sri Vani Vilas Press, 1968.
— . Jh. *Śrīviṣṇusahasranāma (Thousand Names of Lord Viṣṇu), with an Exhaustive Introduction and a Literal English Translation of Śaṅkara Bhāṣya*, by Dr. Naveen Kumar Jha and Dr. Anjana, Delhi: J. P. Publishing House, 2014.
— . R. *Sri Vishnu Sahasranama, with the Bhashya of Sri Parasara Bhattar, with Translation in English*, by Prof. A. Srinivasa Raghavan, Madras: Visishtadvaita Pracharini Sabha, 1983.
— . V. *Sri Vishnu Sahasranama Stotram (With Namavali), (Introduction, English Rendering and Index*, by Swami Vimalananda, Tirupparaiturai: Sri Ramakrishna Tapovanam, 1972.

(二次文献)

- Cardona, George. 1994. "Indian Linguistics," In *History of Linguistics: The Eastern Traditions of Linguistics Vol. 1*, edited by Giulio Lepschy, London & New York: 25-60.
- Coulson, Michael. 2006. *Sanskrit (Teach Yourself)*, London.
- Deshpande, Madhav M. 1993. *Sanskrit & Prakrit: Sociolinguistic Issues*, Delhi.
- Dōyama, Eijirō & Gotō, Toshifumi. trans. 2022. *Rig-Veda. Das Heilige Wissen: Sechster*

- und Siebter Liederkreis, Berlin.
- Falk, Harry & Karashima, Seishi. 2012. “A first-century *Prajñāpāmītā* manuscript from Gandhara—*Parivarta I*,” In *ARIRIAB*, vol. XV: 19-61.
- Gonda, Jan. 1954. *Aspects of Early Viṣṇuism*, Utrecht. (repr. 1993, Delhi).
- Hall, Bruce Cameron. 1992. *Sanskrit Pronunciation: Booklet and Audio*, California.
- Jain, Meenakshi. 2021. *Vasudeva Krishna and Mathura*, New Delhi.
- Kobayashi, Masato. 2004. *Historical Phonology of Old Indo-Aryan Consonants*, Tokyo University of Foreign Studies.
- Oki, Mai. 2022. “The Enumeration of Viṣṇu's Manifestations in the Epic and Purāṇic Literature,” 『印度学仏教学研究』 70-3: (11)-(14).
- Salomon, Richard. 2008. *Two Gāndhārī Manuscripts of the Songs of Lake Anavatapta (Anavatapta-gāthā)*, Seattle and London.
- Sander, Lore. 2000. “Fragments of an Aṣṭasāhasrikā manuscript from the Kuṣāṇa period,” In *Manuscripts in the Schøyen Collection: Buddhist Manuscripts*, Vol. I, Oslo: 1-51.
- Shima, Iwao, Sakata, Teiji, Ida Katsuyuki (ed.). 2011. *The Historical Development of the Bhakti Movement in India: Theory and Practice*, Delhi.
- 池田運 (訳) 2006 『マハバーラト 1』 講談社出版サービスセンター。
- 岩崎良行 2015 「(書評) Iwao Shima, Teiji Sakata, Katsuyuki Ida eds., *The Historical Development of the Bhakti Movement in India: Theory and Practice*, Manohar: New Delhi, 2011, 299 pages (島 岩, 坂田貞二, 井田克征編 『インドにおけるバクティ運動の歴史的展開—理論と実践』マノーハル社: ニューデリー, 2011 年, 299 頁)」 『マハーラーシュトラ』 12: 136-150.
- 宇井伯寿 1936 『印度哲学史』 日本評論社。
- 加藤重広・安藤智子 2016 『基礎から学ぶ音声学講義』 研究社。
- 金倉円照 1962 『インド哲学史』 平楽寺書店。
- 神山孝夫 1995 『日欧比較音声学入門』 国際語学社。
- 。 2008 『脱・日本語なまり: 英語 (+ α) 実践音声学』 大阪大学出版会。
- 辛嶋静志 1993 「法華経における乗 (yāna) と智慧 (jñāna) —— 大乘仏教における yāna の概念の起源について——」 『法華経の受容と展開』 (田賀龍彦編) 平楽寺書店。
- 。 2019 「『法華経』写本研究の重要性」 『東洋学術研究』 58-1: 339-323.
- 坂田貞二 2005 「ヒンディー語とサンスクリット語の諸事典におけるヴィシュヌ

- 神の名辞と記述——ヒンドゥー教徒の信仰実践との関連において——」『拓殖大学語学研究』110: 139-162.
- 辻直四郎 1980『バガヴァッド・ギーター』（インド古典叢書）講談社.
- 中村元 1979「サンスクリットの発音」『印度学仏教学研究』28-1: 10-15.
- . 1987「サンスクリットの発音と現代における表記法」『東方』3: 5-23.
- . 1996『ヨーガとサーンキヤの思想』（中村元選集〔決定版〕第24巻）春秋社.
- ブラム, ジェフリー・K&ラデュサー, ウィリアム・A著, 土田滋・福井玲・中川裕訳 2003『世界音声記号辞典』三省堂.
- 松濤誠廉 1981「Saudarananda に現れた Śabdālaṃkāra」『馬鳴 端正なる難陀』（松濤誠廉先生遺稿集刊行会編）山喜房佛書林: 182-191.
- 宮元啓一 1987「サンスクリット語の片仮名表記について」『東方』3: 24-38.
- 湯山明 1998「法華経の文献学的研究課題」『創価大学国際仏教学高等研究所年報』創刊号: 29-47.
- ロ・ジャコモ, フランソワ著, 水野義明訳 1992『言語の発展: 国際語エスペラントの観点から』大村書店（原著: 1981）.

翻刻ならびに和訳
(MBhār 13, 135, 1-142)

vaiśampāyana uvāca:

ヴァイシャンプーヤナは言った。

śrutvā dharmān aśeṣeṇa pāvanāni ca sarvaśaḥ,

yudhiṣṭhiraḥ śāntanavaṃ punar evābhyabhāṣata. (1)

^{ダルマ}と^{パヴァナ}を全て聞き終えて、ユディシュティライは、再びシャントヌ (= ビーシュマ) に言いました。

kim ekaṃ daivataṃ loke kiṃ vāpy ekaṃ parāyaṇaṃ,

stuvantaḥ kaṃ kam arcantaḥ prāpnuyur mānavāḥ śubham. (2)

世界で唯一の神格は誰でしょうか？ あるいは、唯一の帰依所は誰でしょうか？ 誰を称讃し、讃歎する人々が美しい者に到達できるのでしょうか？

ko dharmāḥ sarvadharmāṇaṃ bhavataḥ paramo mataḥ,

kiṃ japan mucyate jantur janmasaṃsārabandhanāt. (3)

全ての正法の中で、いかなる正法があなたにとって最高のものであると考えるのでしょうか？ 何を唱える衆生が、誕生と輪廻の束縛から解放されるのでしょうか？

bhīṣma uvāca:

ビーシュマは言った。

jagatprabhuṃ devadevam anantaṃ puruṣottamaṃ,

stuvan nāmasahasreṇa puruṣaḥ satatotthitaḥ. (4)

衆生の主であり、神々の中の神であり、無限にして、人々の中の最上者を、絶えず奮起する人は、千の名前によって讃歎しています。

tam eva cārcayan nityaṃ bhaktyā puruṣaṃ avyayaṃ,

dhyāyan stuvan namasyaṃś ca yajamānas tam eva ca. (5)

祭主は、ほかならぬその不滅の人を常に感服²⁵によって、讃歎し、念じ、称讃

²⁵ 動詞√bhaj-は「分配する；与かる」が原義であることから、神が主語であれば「恩寵／福を分配する」、人間が主語であれば「[神の] 恩寵／福に与かる」という意味になるであろう。ただし、そこから派生した bhakti-という名詞は、神の「分配」というよりは、人間の側の属性として使用されているようである。すなわち、私見によれば、bhakti-という名

し、敬礼しています、ほかならぬ彼を。

anādinidhanam viṣṇum sarvalokamaheśvaram,

lokādhyakṣam stuvan nityam sarvaduḥkhātigo bhavet. (6)

一切の世間の大主宰者であり、世間の監督者であり、始まりをもたない蔵であるヴィシュヌを、常に称讃する者は、一切の苦しみを超越するでしょう――

brahmanyam sarvadharmajñam lokānām kīrtivardhanam,

lokanātham mahad bhūtam sarvabhūtabhavodbhavam. (7)

ブラフマンに由来し、一切の正法を知り、世間の者たちの間の名声を増大させ、世間の統率者であり、偉大な存在者であり、一切の存在物が生起する起源である者を〔称讃する者は〕。

eṣa me sarvadharmānām dharmo 'dhikatamo mataḥ,

yad bhaktyā puṇḍarīkākṣam stavair arcen naraḥ sadā. (8)

彼は、私にとって、一切の正法の中の正法であり、最勝の者と考えられます。人は常に感服によって白蓮という眼をもつ者を諸讃歌によって讃歎すべきです――

paramam yo mahat tejaḥ paramam yo mahat tapaḥ,

paramam yo mahad brahma paramam yaḥ parāyaṇam. (9)

偉大な光熱力である最上者、偉大な苦行（／熱力）である最上者、偉大なブラフマンである最上者、偉大な帰依所である最上者、

pavitṛānām pavitram yo maṅgalānām ca maṅgalam,

daivatam daivatānām ca bhūtānām yo'vyayaḥ pitā. (10)

浄化具たちの中の浄化具、吉祥者たちの中の吉祥者、神格たちの中の神格、存在物たちの中の不滅の父として。

詞は、Epic 編纂の時代には、「[神のはたらきに] 感服し [神のはたらきに] 服従／奉仕すること」の意味で使用されていたと推測されるので、簡潔に「感服」という訳語を使用することとした。同様に、動詞√bhaj-には「感服する」という訳語を与えた (past pt. bhakta-「感服した者、感服者」)。尚、bhakti-の意味と辞書類における記述については、岩崎 (2015) にまとめられている。また、bhakti-は後世になると、男女間の強烈な恋愛感情にも喩えられるようになる。そのような文脈では「信愛」や「熱愛」と訳したほうが適切な場合もあろう。インドにおける bhakti-概念の多様な展開については、Shima, Sakata, Ida (2011) に詳しい。これらの先行研究を御教示くださった井田克征氏（中央大学准教授）に感謝する次第である。

yataḥ sarvāṇi bhūtāni bhavanty ādiyugāgame,
yasmimś ca pralayaṃ yānti punar eva yugakṣaye. (11)

最初のユガの到来において、彼より、一切の存在物が生まれます。また、ユガの滅亡において、彼の中で融解に赴きます。

tasya lokapradhānasya jagannāthasya bhūpate,
viṣṇor nāmasahasraṃ me śṛṇu pāpabhayāpaham. (12)

王(=ユディシュテイヤ)よ、世間の者の中の長であり、衆生の統率者であるヴィシュヌの千の名前を、悪業と恐怖を除くために、私から聞きなさい。

yāni nāmāni gaṇāni vikhyātāni mahātmanaḥ,
ṛṣibhiḥ parigītāni tāni vakṣyāmi bhūtaye. (13)

聖仙たちによって唄われた、偉大な靈魂をもつ者の美德ある有名な名前の数々を、幸福のために述べましょう。

viśvaṃ viṣṇur vaṣaṭkāro bhūtabhavyabhavatprabhuḥ,
bhūtakṛd bhūtabhṛd bhāvo bhūtātmā bhūtabhāvanaḥ. (14)

1. ヴィシュヴァ (あらゆる者/万物), 2. ヴィシュヴェ (神名), 3. ヴァシャット・カーラ (ヴァシャットという音声), 4. ブータ・バヴィヤ・バヴァット・プラブ (過去・未来・現在の主), 5. ブータクリト (存在物の作者), 6. ブータブリト (存在物の扶養者), 7. バヴァ (存在者), 8. ブータートマン (存在物の靈魂), 9. ブータバヴァナ (存在物を生み出す者),

pūtātmā paramātmā ca muktānāṃ paramā gatih,
avyayaḥ puruṣaḥ sāksī kṣetrajaño 'kṣara eva ca. (15)

10. ブータートマン (清浄なる靈魂), 11. パラマトマン (最高の靈魂), 12. ムクターナン・パラマ・ガティ (解脱者たちの最高の帰趨), 13. アヴィヤヤ (不滅の者), 14. プルシャ (真人), 15. サクシン ([全てを]見通す者), 16. クシェートラ・ギャ (土地を知る者), 17. アクシャラ (不滅の者),

yogo yogavidāṃ netā pradhānapuruṣeśvaraḥ,
nārasimhavadapuḥ śrīmān keśavaḥ puruṣottamaḥ. (16)

18. ヨーガ (実修), 19. ヨーガ・ヴィダ-ン・ネ-トリ (実修を知る者たちの導師), 20. プラダ-ナ・プルシェ-シュヴァラ (根本物質と真人の統率者), 21. ナーラシ-ンハ・ヴァプス (人獅子の肉体をもつ者), 22. シュリーマット (シュリーに満ち

あふれる者), 23. ケーシャヴァ (美髪の者), 24. プルシヨッタマ (人の中で最上の者),

sarvaḥ śarvaḥ śivaḥ sthāṇur bhūtādir nidhir avyayah,

sambhavo bhāvano bhartā prabhavaḥ prabhur īśvaraḥ. (17)

25. サルヴァ (一切), 26. シャルヴァ (射手), 27. シヴァ (吉祥者), 28. スタヌ (安定した者), 29. プターディ (存在物の祖), 30. ニディ (ル)・アヴィヤヤ (不滅の蔵), 31. サンバヴァ (出生), 32. バヴァナ (生み出す者), 33. バルトリ (保持者), 34. プラバヴァ (先祖), 35. プラブ (主), 36. イシュヴァラ (主宰者),

svayambhūḥ śambhur ādityaḥ puṣkarākṣo mahāsvanaḥ,

anādinidhano dhātā vidhātā dhātur uttamaḥ. (18)

37. スヴァヤンブ (独りで生じる者), 38. シャンブ (慈善者), 39. アディティヤ (アディティの子孫, 太陽), 40. プシュカラクシャ (青蓮華という眼をもつ者), 41. マハスヴァナ (大きな音を出す者), 42. アナーディ・ニダナ (無始無滅の者), 43. ダトリ (定置者), 44. ヴィダトリ (規定者), 45. ダトウ (ル)・ウッタマ (最上の定置者)

aprameyo hr̥ṣīkeśaḥ padmanābho'maraprabhuḥ,

viśvakarmā manus tvaṣṭā sthaviṣṭhaḥ sthaviro dhruvaḥ. (19)

46. アプラメヤ (測定不能の者), 47. フリシケーシャ (髪が逆立った者), 48. パドマ・ナーバ (蓮華という臍をもつ者), 49. アマラ・プラブ (神々の支配者), 50. ヴィシュヴァ・カルマン (あらゆるものの形成をなす者/造万物者), 51. マヌ (人類の始祖), 52. トヴァシュト (工匠), 53. スタヴィシュタ (巨大な者), 54. スタヴィラ・ドルヴァ (永遠の尊者)

agrāhyaḥ śāśvataḥ kṛṣṇo lohitaḥṣaḥ pratardanaḥ,

prabhūtas trikakubdhāma pavitraṃ maṅgalaṃ param. (20)

55. アグラヒヤ (把握不能の者), 56. シャーシュヴァタ (永遠の者), 57. クリシュナ (神名)²⁶, 58. ローヒタークシャ (眼が赤い者), 59. プラタルダナ (破壊者), 60. プラブタ (有能な者), 61. トリ・カクブ・ダマン (三方向を住居とする者), 62. パヴィトラ (浄化具), 63. マンガラ・パラ (最高に縁起の良い者)

²⁶ 「暗い [肌の] 者」を意味する語が固有名詞化したもの。

īśānaḥ prānadaḥ prāṇo jyeṣṭhaḥ śreṣṭhaḥ prajāpatiḥ,

hiraṇyagarbho bhūgarbho mādhave madhusūdanaḥ. (21)

64. イ-シャ-ナ (支配者), 65. プラ-ナ・ダ (氣息を与える者), 66. プラ-ナ (氣息), 67. ディエ-シユダ (最も年上の者), 68. シュレ-シユダ (最も勝れた者), 69. プラヂャ-パティ (生類の祖), 70. ヒラニヤ・ガルバ (黄金の胎児), 71. プ-ガルバ (大地の母胎), 72. マ-ダヴァ (マドゥ族の後裔), 73. マドゥ・ス-ダナ (マドゥの殺害者)

īśvaro vikramī dhanvī medhāvī vikramaḥ kramaḥ,

anuttamo durādharṣaḥ kṛtajñāḥ kṛtir ātmavān. (22)

74. イ-シュヴァラ (主宰者), 75. ヴィクラミン (闊歩をなす者/勇氣ある者), 76. ダンヴィン (弓をもつ者), 77. メ-ダ-ヴィン (叡智ある者), 78. ヴィクラマ (闊歩), 79. クラマ (歩み), 80. アヌッタマ (無上の者), 81. ドゥラ-ダシヤ (攻撃し難い者), 82. クリタ・ギヤ ([衆生の] 行為を知る者), 83. クリティ (行動/創造), 84. ア-トマヴァット (靈魂をもつ者),

sureśaḥ śaraṇaṃ śarma viśvaretāḥ prajābhavaḥ,

ahaḥ saṃvatsaro vyālaḥ pratyayas sarvadarśanaḥ. (23)

85. スレ-シャ (神々の主), 86. シャラナ (拠り所), 87. シャルマン (幸福), 88. ヴィシュヴァ・レタス (あらゆる者の精子), 89. プラヂャ-バヴァ (生類を生み出す者), 90. アハン (日), 91. サンヴァツツアラ (年), 92. ヴィヤ-ラ (蛇), 93. プラティヤヤ (原因), 94. サルヴァ・ダルシャナ (一切を見る者),

ajaḥ sarveśvaraḥ siddhaḥ siddhiḥ sarvādir acyutaḥ,

vṛṣākapiṛ ameyātmā sarvayogaviniḥṣṭaḥ. (24)

95. アジャ (不生の者), 96. サルヴェ-シュヴァラ (一切の者にとっての主宰者), 97. スィダ (成就者), 98. スィダ-イ (成就/効験), 99. サルヴァ-ディ (一切のものの始まり), 100. アチュタ (不滅の者), 101. ヴリ-シャ-カピ (猿王の名), 102. アメ-ヤ-トマン (測定不能の靈魂をもつ者), 103. サルヴァ・ヨ-ガ・ヴィニヒスリタ (全ての束縛から逃れた者)

vasur vasumanāḥ satyaḥ samātmāsammitaḥ samaḥ,

amogaḥ puṇḍarikākṣo vṛṣakarmā vṛṣākṛtiḥ. (25)

104. ヴァス (神名), 105. ヴァス・マナス (富の[ように豊かな]心をもつ者),

106. サッティヤ (真実), 107. サマートマン (平等な靈魂をもつ者), 108. アサンミタ (測定不能の者), 109. サマ (平静／平等な者), 110. アモーガ (必ず願いを叶える者), 111. プンダリーカークシャ (白蓮という眼をもつ者), 112. ヴリシヤ・カルマン (雄牛の行動を為す者), 113. ヴリシヤークリティ (雄牛の姿をとる者),

rudro bahuśirā babhrur viśvayoniḥ śuciśravāḥ,

amṛtaḥ śāśvataḥ sthāṇur varāroho mahātapāḥ. (26)

114. ルドラ (神名)²⁷, 115. バフ・シラス (多くの頭をもつ者), 116. バブル (褐色の者), 117. ヴィシュヴァ・ヨーニ (あらゆる者の母胎), 118. シュチ・シュラヴァス (清浄なる名声をもつ者), 119. アムリタ (不死の者／死者を持たない者), 120. シヤ・シュヴァタ・スタ・ヌ (永遠に安定した者), 121. ヴアラ・ローハ (最上の懐をもつ者), 122. マハー・タパス (偉大な苦行をなす者／大きな熱力をもつ者)

sarvagaḥ sarvavidbhānur viśvakseno janārdanaḥ,

vedo vedavid avyaṅgo vedāngo vedavit kaviḥ. (27)

123. サルヴァ・ガ (一切に浸透する者), 124. サルヴァ・ヴィッド・バヌ (一切を知る光明をもつ者), 125. ヴィシュヴァック・セーナ (あらゆる方向に軍隊を配置する者), 126. チャナルダナ (人々を苦しめる者), 127. ヴェーダ (知っている者／ヴェーダ聖典), 128. ヴェーダ・ヴィッド (ヴェーダを知る者), 129. アヴィヤンガ (肢体の不自由がない者), 130. ヴェーダ・ンガ (ヴェーダ補助学), 131. ヴェーダ・ヴィッド (ヴェーダを知る者), 132. カヴィ (見者／詩人),

lokādhyakṣaḥ surādhyakṣo dharmādhyakṣaḥ kṛtākṛtaḥ,

caturātmā caturvyūhaś caturdaṁṣtraś caturbhujāḥ. (28)

133. ローカ・ディヤクシャ (世間の監督者), 134. スラー・ディヤクシャ (神々の監督者), 135. ダルマ・ディヤクシャ (正法の監督者), 136. クリター・クリタ (行為をして行為をしない者), 137. チャトゥラートマン (賢明なる靈魂をもつ者), 138. チャトゥル・ヴィユハ (四つの顕現をもつ者), 139. チャトゥル・ダンシユトトラ (四本の牙をもつ者), 140. チャトゥル・ブヂャ (四本の腕をもつ者),

²⁷ 「咆哮をなす者」を意味する語が固有名詞化したもの。

bhrājīṣṇur bhojanam bhoktā sahiṣṇur jagadādījah,

anagho vijayo jetā viśvayoniḥ punarvasuḥ. (29)

141. ブラ-ディシユヌ (輝かしい者), 142. ボ-ヂャナ (食物), 143. ボ-クトリ (食べる者), 144. サヒシユヌ (忍耐強い者), 145. ヂャガッダ-ディ・ヂャ (衆生のうち最初に生まれた者), 146. アナガ (罪のない者), 147. ヴィヂャヤ (征服), 148. ヂェ-トリ (勝者), 149. ヴィシユヴァ・ヨ-ニ (あらゆる者の母胎), 150. プナル・ヴァス (利益を取り戻す者),

upendro vāmanaḥ prāṁsur amoghaḥ śucir ūrjitah.

aṁdraḥ saṁgrahaḥ sargo dhṛtāmā niyamo yama. (30)

151. ウペ-ンドラ (インドラの弟), 152. ヴァ-マナ ([体の] 小さな者), 153. プラ-ンシユ (背の高い者), 154. アモ-ガ (必ず願いを叶える者), 155. シユチ (清浄), 156. ウル-ディタ (滋養を得た者), 157. アティ-ンドラ (インドラを超えた者), 158. サン-グラハ (摂取), 159. サル-ガ (創造), 160. ド-リタ-トマン (堅固な靈魂をもつ者), 161. ニヤ-マ (節制), 162. ヤ-マ (禁戒),

vedyo vaidyaḥ sadāyogī vīrahā mādhave madhuḥ,

aṁdriyo mahāmāyo mahotsāho mahābalaḥ. (31)

163. ヴェ-ディヤ (知られるべき者), 164. ヴァイ-ディヤ (学問に通じた者), 165. サダ-・ヨ-ギン (常に実修している者), 166. ヴィ-ラ・ハン (勇者を殺す者), 167. マ-ダヴァ (マドゥ族の後裔), 168. マドウ (蜜), 169. アティ-ンドリヤ (感覚器官を超えた者), 170. マハ-・マ-ヤ (大きな幻力をもつ者), 171. マホ-トサヴァ (大きな祝祭), 172. マハ-・バ-ラ (大きな戦闘力をもつ者),

mahābuddhir mahāvīryo mahāśaktir mahādyutiḥ,

anirdeśyavapuḥ śrīmān ameyātmā mahādrīḥ. (32)

173. マハ-・ブ-ッディ (大きな理解力をもつ者), 174. マハ-・ヴィ-リヤ (大きな勇気をもつ者), 175. マハ-・シヤ-クティ (大きな能力をもつ者), 176. マハ-・ド-ユティ (大きな輝きをもつ者), 177. アニル-デ-シヤ・ヴァプス (肉体を特定できない者), 178. シユリ-マット (シユリ-に満ちあふれる者), 179. アメ-ヤ-トマン (測定不能の靈魂をもつ者), 180. マハ-ドリ・ド-リク (巨大な山を保持する者),

maheṣvāso mahābhartā śrīnivāsaḥ satām gatiḥ,

aniruddhaḥ surānando govindo govidām patih. (33)

181. マヘ-シュヴァ-サ (大きな弓をもつ者), 182. マヒ-バルトリ (大地を保持する者), 183. シュリ-ニヴァ-サ (シュリ-の住居), 184. サタン-ガティ (聖者たちの帰趨), 185. アニルッダ (妨げられることのない者), 186. スラー-ナ (神々に歓喜を与える者), 187. ゴ-ヴィンダ (牛飼い), 188. ゴ-ヴィダ-ン・パティ (牛飼いたちの主),

marīcir damano hamsaḥ suparno bhujagottamaḥ,

hiraṇyanābhaḥ sutapāḥ padmanābhaḥ prajāpatiḥ. (34)

189. マリ-チ (神名)²⁸, 190. ダマナ (調教者), 191. ハンサ (鳥名), 192. スパルナ (鳥名) 驚²⁹, 193. ブヂャ-ゴッタマ (最高の蛇), 194. ヒラ-ニヤ・ナバ (黄金の脰をもつ者), 195. スタバ (よく苦行をなす者), 196. パドマ・ナバ (蓮華を脰にもつ者), 197. プラ-ヂャ-パティ (生類の祖),

amṛtyuḥ sarvadṛk simhaḥ saṃdhātā saṃdhimān sthiraḥ,

aḥ durmarṣaṇaḥ śāstā viśrutātmā surārihā. (35)

198. アムリ-ティユ (不死なる者), 199. サル-ヴァ・ドリシュ (一切を見る者), 200. シンハ (獅子), 201. サン-ダトリ (結合する者), 202. サン-ディマツト (友好関係をもつ者), 203. ス-ティラ (動かない者), 204. ア-ヂャ (不生の者), 205. ド-ウルマル-シヤナ ([悪魔にとって] 容赦し難い者), 206. シヤ-ストリ (教師), 207. ヴィ-シュル-タートマン (幸福な靈魂をもつ者), 208. スラ-リ・ハン (神々の敵を殺す者),

gurur gurutamo dhāma satyaḥ satyaparākramaḥ,

nimiṣo 'nimiṣaḥ sragvī vācaspatir udāradhī. (36)

209. グル (導師), 210. グル-タマ (最高の導師), 211. ダ-マン (住居/光輝), 212. サ-ッティヤ (真実), 213. サ-ッティヤ・パラ-クラマ (真実の勇敢さをもつ者), 214. ニミ-シヤ (まばたき), 215. アニミ-シヤ (まばたきをしない者), 216. スラ-グヴィン (花環をかけた者), 217. ヴァ-チヤ-スパティ (ル)・ウダ-ラ-ディー (勝れた洞察力をもつ言葉の主),

²⁸ 「光線」を意味する語が固有名詞化したもの。

²⁹ 「良い翼をもつ者」を意味する語が固有名詞化したもの。

agranīr grāmaṇīḥ śrīmān nyāyo netā samīraṇaḥ,

sahasramūrdhā viśvātmā sahasrākṣaḥ sahasrapāt. (37)

218. アグラ・ニー(先導者), 219. グラマ・ニー(村落の長), 220. シュリーマツト(シュリーに満ちあふれる者), 221. ニヤヤ(正理), 222. ネットリ(導師), 223. サミラナ(かきたてる者), 224. サハスラ・ムルダ^ン(千の頭をもつ者), 225. ヴィシュヴァートマン(あらゆる者の靈魂), 226. サハスラクシャ(千の眼をもつ者), 227. サハスラ・パッド(千の足をもつ者),

āvartano nivṛttātmā saṃvṛtaḥ saṃpramardanaḥ,

ahaḥsaṃvartako vahnir anilo dharaṇīdharāḥ. (38)

228. アヴァルタナ(回転させる／攪拌する者), 229. ニヴリッタートマン(靈魂を帰還させた者), 230. サンヴリタ([欲望を]抑えた者), 231. サンブラマルダナ([悪魔を]粉砕する者), 232. アハ・サンヴァルタカ(日を回す者), 233. ヴァフニ³⁰(火神アグニ), 234. アニラ(風), 235. ダラニ・ダラ(大地を保持する象),

suprasādaḥ prasannātmā viśvadhṛg viśvabhug vibhuḥ,

satkartā satkṛtaḥ sādhuḥ jahnur nārāyaṇo naraḥ. (39)

236. スブラサーダ(良い恩恵をもたらす者), 237. プラサンナートマン(清浄な靈魂をもつ者), 238. ヴィシュヴァ・ドリク(あらゆるものを保持する者), 239. ヴィシュヴァ・プヂ(あらゆるものを享受する者), 240. ヴィヅ(異なる形で現われる者), 241. サット・カルトリ(敬礼する者), 242. サット・クリタ(敬礼された者), 243. サドゥ(聖者), 244. チャフヌ(固有名詞)³¹, 245. ナラヤナ(神名), 246. ナラ(固有名詞)／([理想的な]男),

asaṃkhyeyo'prameyātmā viśiṣṭaḥ śiṣṭakṛc chuciḥ,

siddhārthaḥ siddhasaṃkalpaḥ siddhidaḥ siddhisādhanāḥ. (40)

247. アサンキエーヤ(数えられない／評価不能の者), 248. アプラメーヤートマン(測定不能の靈魂をもつ者), 249. ヴィシシュタ(傑出した者), 250. シシュタ・クリト(教養人を作る者), 251. シュチ(清浄), 252. スイッダ^ルタ(目的を成就した者), 253. スイッダ・サンカルパ(決意を実現した者), 254. スイッ

³⁰ 原意は「(供物を)運ぶ者」。

³¹ 語源不明。

ヱィ・ダ (成就を与える者), 255. スィツヱィ・サーダナ (成就を実現する者),
vr̥ṣāhī vr̥ṣabho viṣṇur vr̥ṣaparvā vr̥ṣodarah,

vardhano vardhamānās ca viviktaḥ śrutisāgarah. (41)

256. ヴリシヤ^ヒ (語義不明), 257. ヴリシヤ^バ (雄牛), 258. ヴィシユ^ヌ (神名), 259. ヴリシヤ[・]パルヴァ^ン (力強い関節をもつ者), 260. ヴリシヨ[・]ダラ (雄牛の内臓をもつ者), 261. ヴアルダ[・]ナ (繁栄させる者), 262. ヴアルダ[・]マーナ (繁栄させている者), 263. ヴィヴィク[・]タ ([欲望から] 離れた者), 264. シュルティ[・]サーガラ (ヴェーダの海をもつ者),

subhujo durdharo vāgmī mahendro vasudo vasuḥ,

naikarūpo br̥hadrūpaḥ śipiviṣṭaḥ prakāśanaḥ. (42)

265. スブヂヤ (良い腕をもつ者), 266. ドウルダ[・]ラ (保持し難い者), 267. ヴァーグミン (雄弁な者), 268. マヘンドラ (偉大な帝王), 269. ヴァス[・]ダ (財産を与える者), 270. ヴァス (神名), 271. ナイカ[・]ルパ (多くの姿をとる者), 272. ブリハ[・]ッド[・]ルパ (巨大な姿をとる者), 273. シピ[・]ヴィシユ[・]タ³² (語義不明), 274. プラカ[・]シャナ (照らす者),

ojastejodyutidharah prakāśātmā pratāpanah,

ṛddhaḥ spaṣṭākṣaro mantras candrāmśur bhāskaradyutiḥ. (43)

275. オーヂヤ[・]テ[・]ジョ[・]ド[・]ユティ[・]ダ[・]ラ (気力・光熱力・光輝を保持する者), 276. プラカ[・]シャ[・]ートマン (照明という靈魂をもつ者), 277. プラタ[・]パナ (熱する者), 278. リ[・]ッダ (繁栄した者), 279. スパシユ[・]ターク[・]シヤ[・]ラ (明確な発音をする者), 280. マントラ (真言), 281. チャンドラ[・]ン[・]シュ (月光), 282. バ[・]スカ[・]ラ[・]ド[・]ユティ (太陽の輝きをもつ者),

amṛtāmśūdbhavo bhānuḥ śāśabinduḥ sureśvarah,

auśadham jagataḥ setuḥ satyadharmaparākramah. (44)

283. アムリタ[・]ン[・]シュ[・]ード[・]バ[・]ヴァ (月から生まれた者), 284. バ[・]ヌ (光明), 285. シャ[・]シャ[・]・[・]ビ[・]ンドウ (兎の影像をもつ者=月), 286. スレ[・]シュ[・]ヴァ[・]ラ (神々

³² śipiviṣṭa は、RV VII 99, 7; 100, 5-7 に出る Viṣṇu の別称であるが、語義不明である。この語は RV 以降も解釈の変遷を経ながら言及されている。インドでは、Nirukta 5, 7;8 の訓釈が有名である。近代の学者の解釈については、Gonda (1954: 106) を参照のこと。Gotō (2022: 628) は「(蚤のように) 頭髪に入り込んだ (隠れた)」という語源を示唆する (日本語は拙訳)。

にとつての主宰者), 287. アウシヤダ (薬), 288. チャガタハ・セトウ (衆生にとつての橋), 289. サッティヤ・ダルマ・バラクラマ (真実の正法に基づく勇敢さをもつ者),

bhūtabhavyabhavannāthaḥ pavanaḥ pāvano'nalaḥ,

kāmahā kāmakṛt kāntaḥ kāmah kāmapradaḥ prabhuḥ. (45)

290. ブタ・バヴィヤ・バヴァン・ナタ (過去・未来・現在の統率者), 291. パヴァナ (風/浄化具), 292. パヴァナ (清める者), 293. アナラ (火), 294. カマ・ハン (愛欲を滅ぼす者), 295. カマ・クリト (願望を叶える者), 296. カンタ (魅力的な者), 297. カマ (願望 [そのもの]), 298. カマ・プラダ (願望を叶える者), 299. プラブ (主),

yugādikṛd yugāvarto naikamāyo mahāśanaḥ,

aḍṛṣyo vyaktarūpāś ca sahasrajid anantajit. (46)

300. ユガディ・クリト (ユガ等の作り手), 301. ユガヴァルタ (ユガの巡りをもたらす者), 302. ナイカ・マヤ (多くの幻力を駆使する者), 303. マハーシャナ (偉大な食べ手), 304. アドリシュヤ (見ることのできない者), 305. ヴィヤクタ・ルパ (姿を現す者), 306. サハスラ・ディット (千 [の敵] に勝利する者), 307. アナンタ・ディット (無数 [の敵] に勝利する者),

iṣṭo viśiṣṭaḥ śiṣṭeṣṭaḥ śikhaṇḍī nahuṣo vṛṣaḥ,

krodhahā krodhakṛtkartā viśvabāhur mahīdharah. (47)

308. イシュタ (信愛なる者/お祀りしている神), 309. ヴィシシュタ (傑出した者), 310. シシュテ・シュタ (教養人の信愛する者), 311. シカデイン (冠毛のある者), 312. ナフシャ (固有名詞), 313. ヴリシャ (雄牛), 314. クロダ・ハン (怒りを滅する者), 315. クロダ・クリト・カルトリ (怒りを作る者 (= 悪人) の作り手), 316. ヴィシュヴァ・バーフ (あらゆる [救いの] 手をもつ者), 317. マヒー・ダラ (大地の保持者),

acyutaḥ prathitaḥ prāṇaḥ prāṇado vāsavānujaḥ,

apāṃ nidhir adhiṣṭhānam apramattaḥ pratiṣṭhitaḥ. (48)

318. アチュタ (不滅の者), 319. プラティタ (著名な者), 320. プラナ (氣息), 321. プラナ・ダ (氣息を与える者), 322. ヴァーサヴァーヌヂャ (ヴァーサヴァの弟), 323. アパン・ニディ (水たちの容器), 324. アディシュタナ (掬

り所／加持力), 325. アプラマッタ (無頓着でない者), 326. プラティシュテイ
タ (安立した者),

skandaḥ skandaharo dhuryo varado vāyuvāhanaḥ,

vāsudevo brhadbhānur ādidevaḥ purāṇdarah. (49)

327. スカンダ〈神名〉³³, 328. スカンダ・ダラ (スカンダを保持する者), 329.
ドウリヤ (牽牛), 330. ヴァラ・ダ (願いを叶える者), 331. ヴァーユ・ヴァーハ
ナ (風を運ぶ者＝ガルダ鳥), 332. ヴァースデーヴァ 〈神名〉, 333. ブリハッド・
バヌ (巨大な輝きをもつ者), 334. アーディ・デーヴァ (最初の神), 335. プラン・
ダラ (要塞の破壊者),

aśokaḥ tāraṇas tārah śūrah śaurir janeśvaraḥ,

anukūlah śatāvartaḥ padmī padmanibhekṣaṇah. (50)

336. アショーカ (苦悩のない者), 337. ターラナ ([船で河を] 渡らせる者), 338.
ターラ (堤), 339. シューラ (勇者), 340. シャウリ (シューラ族出身の者), 341.
ヂャネーシュヴアラ (人々にとっての主宰者), 342. アヌクーラ ([誰に対しても]
親切な者), 343. シャターヴァルタ (百の転生をもつ者), 344. パドミン (蓮華を
もつ者), 345. パドマ・ニベクシャナ (蓮華に似た眼をもつ者),

padmanābho 'ravindākṣaḥ padmagarbhaḥ śarīrabhīrt,

maharddhir ṛddho vṛddhātmā mahākṣo garuḍadhvaḥ. (51)

346. パドマ・ナバ (蓮華という臍をもつ者), 347. アラヴィンダクシャ (蓮
華という眼をもつ者), 348. パドマ・ガルバ (蓮華を母胎とする者), 349. シャ
リラ・ブリト (肉体を保持する者), 350. マハルッデイ (大きな繁栄をもつ者),
351. リッダ (繁栄した者), 352. ヴリッダトマン (成熟した靈魂をもつ者),
353. マハクシャ (大きな眼をもつ者), 354. ガルダ・ドヴァヂヤ (ガルダを旗
印とする者),

atulaḥ śarabho bhīmaḥ samayaḥjño havirhariḥ,

sarvalakṣaṇalakṣaṇyo lakṣmīvān samitiṅjayaḥ. (52)

355. アトウラ (比類なき者), 356. シャラバ (鹿の一種), 357. ビーマ (固有
名詞)³⁴, 358. サマ・ヤッギヤ (平等に供犠を行なう者), 359. ハヴイル・ハリ

³³ 「跳ぶ者」を意味する語が固有名詞化したもの。

³⁴ 「恐ろしい者」を意味する語が固有名詞化したもの。

(焼き供のように黄褐色の者), 360. サルヴァ・ラクシャナ・ラクシャニヤ (一切の特徴によって特徴づけられる者), 361. ラクシュミーヴァット (ラクシュミーに満ちあふれる者), 362. サミティン・ヂャヤ (戦闘に勝つ者),

vikṣaro rohito mārgo hetur damodaras sahaḥ,

mahīdharo mahābhāgo vegavān amitāśanaḥ. (53)

363. ヴィクシャラ (流入), 364. ローヒタ (栗色の馬), 365. マールガ (道), 366. ヘートウ (原因), 367. ダモダラ (腹に綱を巻く者), 368. サハ (耐え忍ぶ者), 369. マヒー・ダラ (大地の保者), 370. マハー・バガ (大きな恩寵／福をもつ者), 371. ヴェーガヴァット (激烈なる者), 372. アミターシャナ (無限に食べる者),

udbhavaḥ kṣobhaṇo devaḥ śrīgarbhaḥ parameśvaraḥ,

karaṇaṃ kāraṇaṃ kartā vikartā gahano guhaḥ. (54)

373. ウドバヴァ (起源), 374. クショバナ (振動させる者), 375. デーヴァ (神), 376. シュリー・ガルバ (シュリーを母胎にもつ者), 377. パラメシュヴァラ (至高の主宰者), 378. カラナ (行為／手段), 379. カラナ (動因, 原因), 380. カルトリ (作り手／行為者), 381. ヴィカルトリ (変化せしめる者), 382. ガハナ (奥深い者), 383. グハ ([本性を] 隠す者),

vyavasāyo vyavasthānaḥ samsthānaḥ sthānado dhruvaḥ,

pararddhīḥ paramaspaṣṭas tuṣṭaḥ puṣṭaḥ śubheksaṇaḥ. (55)

384. ヴィヤヴァサヤ (決意／誓願), 385. ヴィヤヴァスターナ (安置する者), 386. サンスターナ (共に住む者), 387. スターナ・ダ (住まいを与える者), 388. ドウルヴァ (不動の者), 389. パラルツディ (最高の繁栄をもつ者), 390. パラマ・スパシュタ (最も [声が] 明瞭な者), 391. トゥシュタ (歓喜した／満足した者), 392. ブシュタ (愛育された者), 393. シュベクシャナ (美しい眼をもつ者),

rāmo virāmo virato mārgo neyo nayo 'nayaḥ,

vīraḥ śaktimatam śreṣṭho dharmo dharmaviduttamaḥ. (56)

394. ラーマ (固有名詞), 395. ヴィラーマ (終結), 396. ヴィラタ ([欲を] 厭離した者), 397. マールガ (道), 398. ネーヤ ([最終的に] 導かれるべき者), 399. ナヤ (道理), 400. アナヤ (導く者のいない者), 401. ヴィーラ (勇者), 402. シヤ

クティマターン・シュレシユタ (能力をもつ者たちの中で最上の者), 403. ダルマ (正法), 404. ダルマヴィッド・ウッタマ (正法を知る者たちの中で最上の者),

vaikuṅṭhaḥ puruṣaḥ prāṇaḥ prāṇadaḥ praṇavaḥ pṛthuh,

hiranyagarbhaḥ śatruḥno vyāpto vāyur adhokṣajaḥ. (57)

405. ヴァイクンタ (ヴィクンタ天に属する者), 406. プルシャ (真人), 407. プラナ (氣息), 408. プラナ・ダ (氣息を与える者), 409. プラナヴァ (聖音オン), 410. プリトウ (固有名詞)³⁵, 411. ヒラニヤ・ガルバ (黄金の胎児), 412. シャトル・グナ (敵を殺す者), 413. ヴィヤブタ (浸透した者), 414. ヴァーク (風), 415. アドクシャ・チャ (車軸の下で生まれた者),

ṛtuḥ sudarśanaḥ kālaḥ parameṣṭhī parigrahaḥ,

ugraḥ saṃvatsaro dakṣo viśrāmo viśvadakṣiṇaḥ. (58)

416. リトウ (季節), 417. スダルシャナ (見目麗しい), 418. カラ (時, 適時), 419. パラメシユティン (最上の者), 420. パリグラハ ([内部に] 取り入れる者), 421. ウグラ (厳格な者), 422. サンヴァツアラ (年), 423. ダクシャ (巧みな者), 424. ヴィシュラマ (安穩), 425. ヴィシュヴァ・ダクシナ (あらゆることに巧みな者),

vistāraḥ sthāvarasthāṇuḥ pramāṇaṃ bījam avyayam,

artha 'nartho mahākośo mahābhogo mahādhanah. (59)

426. ヴィスターラ (巨大化 [する者]), 427. スタヴァアラ・スタヌ (永遠に安定した者), 428. プラマナ (判断根拠), 429. ビンチャ (ム)・アヴィヤヤ (不滅の種子), 430. アルタ (意味, 価値), 431. アナルタ (意味ならざる者³⁶), 432. マハー・コシヤ (大きな輻), 433. マハー・ボガ (大きな日用品), 434. マハー・ダナ (大きな財産),

anirvinṇaḥ sthaviṣṭho bhūr dharmayūpo mahāmakhaḥ.

nakṣatranemir nakṣatṛī kṣamaḥ kṣāmaḥ samīhanaḥ. (60)

435. アニルヴィシナ (落胆することのない者), 436. スタヴィシユタ (巨大な者), 437. プ (大地), 438. ダルマ・ユパ (正法の柱), 439. マハー・マカ (大きな祭式), 440. ナクシャトラ・ネミ (星宿の臍), 441. ナクシャトリン (星宿

³⁵ 「恰幅の良い者」を意味する語が固有名詞化したもの。

³⁶ 即ち「意味を超えた意味」＝「最高の意味」を意味する。

の主 (=月)), 442. クシヤマ (有能なる者), 443. クシヤ-マ (焦げた [色をした] 者), 444. サミ-ハナ (尽力する者),

yajña ijyo mahejyaś ca kratuḥ sattraṃ satām gatiḥ,
sarvadarśī vimuktātmā sarvajño jñānam uttamam. (61)

445. ヤッギヤ (祭祀), 446. イヂュヤ (祭られるべき者), 447. マヘ-ヂヤ (偉大な祭られるべき者), 448. クラトウ (精神力), 449. サットラ (祭式名), 450. サタン・ガティ (聖者たちの帰趨), 451. サルヴァ・ダルシン (一切を見る者), 452. ヴィムクタートマン (解脱した靈魂をもつ者), 453. サルヴァ・ギヤ (一切を知る者), 454. ギヤ-ナ (ム)・ウッタマ (最上の知識),

suvrataḥ sumukhaḥ sūkṣmaḥ sughoṣaḥ sukhadaḥ suhr̥t,
manoharo jitakrodho vīrabāhur vidāraṇaḥ. (62)

455. スヴラタ (良い警戒をもつ者), 456. スムカ (良い顔をした者), 457. スクシユマ (微細な者), 458. スゴ-シヤ (良い咆哮をなす者), 459. スカ・ダ (幸福感を与える者), 460. スフリド (良い心をもつ者/友), 461. マノ-ハラ (魅力的な者), 462. ディタ・クロ-ダ (怒りに打ち勝った者), 463. ヴィ-ラ・バ-フ (勇者の腕をもつ者), 464. ヴィダ-ラナ (引き裂く者),

svāpanaḥ svavaśo vyāpī naikātmā naikakarmakṛt,
vatsaro vatsalo vatsī ratnagarbho dhaneśvaraḥ. (63)

465. スヴァ-パナ (眠らせる者), 466. スヴァ・ヴァシヤ (自律している者), 467. ヴィヤ-ピン (浸透する者), 468. ナイカートマン (多くの靈魂をもつ者), 469. ナイカ・カルマ・クリト (多くの行為をなす者), 470. ヴァツツアラ (年), 471. ヴァツツアラ ([親としての] 愛情を抱く者), 472. ヴァツツイン (子牛をもつ者³⁷), 473. ラトナ・ガルバ (宝石を母胎にもつ者), 474. ダネ-シュヴァラ (財産の主宰者),

dharmagub dharmakṛd dharmī sad asat kṣaram akṣaram,
avijñātā sahasrāṃśur vidhātā kṛtalakṣaṇaḥ. (64)

475. ダルマ・グプ (正法の護り手), 476. ダルマ・クリト (正法の作り手), 477. ダルミン (正法をもつ者), 478. サット (存在/真), 479. アサット (非存在), 480. クシヤラ (変容しやすい者), 481. アクシヤラ (不滅の者), 482. ア

³⁷ 即ち「子牛に対するように衆生に愛情を注ぐ者」の意と推測される。

ヴィギヤートリ (識別しない者), 483. サハスラ-ンシュ (千の光線をもつ者 (= 太陽)), 484. ヴィダ-トリ (規定する者), 485. クリタ・ラクシャナ (特徴を規定した者),

gabhastinemiḥ sattvastaḥ siṃho bhūtamaheśvaraḥ,

ādidevo mahādevo deveśo devabhṛd guruḥ. (65)

486. ガバ^ウスティ・ネ-ミ (光線を臍にもつ者), 487. サットヴァ・スタ (純質に住する者), 488. シンハ (獅子), 489. ブ-タ・マヘ-シュヴァラ (存在物の偉大な帝王), 490. ア-ディ・デーヴァ (最初の神), 491. マハ-・デーヴァ (偉大な神), 492. デ-ヴェ-ンシャ (神々の主), 493. デ-ヴァ・プリド・グル (神々を保持する尊師),

uttaro gopatir goptā jñānagamyāḥ purātanaḥ,

śarīrabhūtabhṛd bhoktā kapīndro bhūridakṣiṇaḥ. (66)

494. ウッタラ (最上の者), 495. ゴ-パティ (牛飼い), 496. ゴ-プトリ (保護する者), 497. ギャ-ナ・ガミヤ (知識によって到達される者), 498. プラ-タナ (古^{いにしへ}の者), 499. シャリ-ラ・ブ-タ・ブ-リト (肉体の元素を保持する者), 500. ボ-クトリ (食べる者), 501. カピ-ンドラ (猿王), 502. ブ-リ・ダクシナ (気前よく与える者)

somapo 'mṛtapaḥ somaḥ purujit purusattamaḥ,

vinayo jayaḥ satyasaṃdho dāśārhas sātvatām patīḥ. (67)

503. ソ-マ・パ (ソ-マを飲む者), 504. アムリタ・パ (不死の甘露を飲む者), 505. ソ-マ (祭式に用いられる特定の液体), 506. プル・ディット (多数を征服する者), 507. プル・サッタマ (格別に特上の者), 508. ヴィナヤ (慎み), 509. チャヤ (勝利), 510. サッティヤ・サンダ (真実の協定を結ぶ者), 511. ダ-シャルハ (ダシャルハ族出身の者), 512. サ-トヴァ-タ-ン・パティ (サ-トヴァ-ト族の主),

jīvo vinayitā sāksī mukundo 'mitavikramaḥ,

ambhonidhir anantātmā mahodadhiśayo 'ntakaḥ. (68)

513. ディ-ヴァ (生きている者/命/魂), 514. ヴィナイトリ・サ-クシン (慎む者にして監視者), 515. ムクンダ (固有名詞)³⁸, 516. アミタ・ヴィクラマ (測

³⁸ 語源不明.

定不能の闊歩をなす者), 517. アンボ-・ニディ (水の器 (=海)), 518. アナタートマン (無限の靈魂をもつ者), 519. マホ-ダディ・シャヤ (大海に横たわる者), 520. アンタカ (終りをもたらす者),

ajo mahārhaḥ svābhāvyo jītāmītraḥ pramodanaḥ,

ānando nandano nandaḥ satyadharmā trivikramaḥ. (69)

521. アヂャ (不生の者), 522. マハ-ルハ (崇拜に値する偉大な者), 523. スヴァ-~~バ~~-ヴィヤ (自性に由来する者), 524. ディターミトラ (敵を征服した者), 525. プラモ-ダナ (歓喜させる者), 526. ア-ナンダ (歓喜), 527. ナンダナ (喜ぶ者), 528. ナンダ (喜び), 529. サッティヤ・~~ダ~~ルマン (真実の正法をもつ者), 530. トリ・ヴィクラマ (三步の闊歩をなす者),

mahaṣṛīḥ kapilācāryaḥ kṛtajño medinīpatiḥ,

tripadaś tridaśādhyakṣo mahāśṛṅgaḥ kṛtāntakṛt. (70)

531. マハルシ・カピラ-チャーリヤ (大聖仙カピラ阿闍梨), 532. クリタ・ギヤ ([衆生の] 行為を知る者³⁹), 533. メ-ディニ-・パティ (大地の主), 534. トリ・パダ (三步をなす者/三脚から成る者/三語をもつ者), 535. トリ・ダシャ-ディヤクシヤ (三十神の監督者), 536. マハ-・シュリンガ (大きな角/牙をもつ者), 537. クリタ-ンタ・クリト (クリタ期の終末を作る者/行為の終わりをもたらす者),

mahāvarāho govindaḥ suṣeṇaḥ kanakāṅgadī,

guhyo gabhīro gahano guptaś cakragadādharaḥ. (71)

538. マハ-・ヴァラーハ (大きな猪), 539. ゴ-ヴィンダ (牛飼い), 540. スシェ-ナ (良い飛び道具をもつ者), 541. カナカ-ンガディン (黄金の腕輪をもつ者), 542. グヒヤ (秘密), 543. ガ~~ビ~~-ラ (奥深い者), 544. ガハナ (奥深い者), 545. グプタ (護られた者), 546. チャックラ・ガダ-・~~ダ~~ラ (円輪と棍棒を保持する者),

vedhāḥ svāngo 'jītaḥ kṛṣṇo dṛḍhaḥ saṃkarṣaṇo 'cyutaḥ,

varuṇo vāruṇo vṛkṣaḥ puṣkarākṣo mahāmanāḥ. (72)

547. ヴェ-~~ダ~~ス (敬虔なる者), 548. スヴァ-~~ン~~ガ (自身を肢分とする者), 549.

³⁹ kṛtajña-は、仏教では、「[仏陀/他者によって] なされたことを知る者」「知恩者」を意味するが、ここでは神の称号であるので、このように訳した。

アヂイタ (征服不能の者), 550. クリシユナ (神名), 551. ドリダ (堅固な者),
552. サンカルシヤナ・アチュタ (引き寄せる不滅の者), 553. ヴァルナ (神名),
554. ヴァールナ (ヴァールナの子), 555. ヴリクシヤ (樹木), 556. プシユカラーク
シヤ (青蓮華という眼をもつ者), 557. マハー・マナス (偉大な思考力をもつ者),

bhagavān bhagahānandī vanamālī halāyudhaḥ,

ādityo jyotir ādityaḥ sahiṣṇur gatisattamaḥ. (73)

558. バガヴァット (恩寵／福に満ちあふれる者, 福満者), 559. バガ・ハー (分
け前を喜捨する者), 560. アーナンディン (歓喜をもつ者) / ナンディン (歓喜
をもつ者), 561. ヴァナ・マーリン (野生の花の環をかけた者), 562. ハラユダ
(鋤を武器としてもつ者), 563. アーディティヤ (アディティの子孫, 太陽), 564.
デヨーティ (ル)・アーディティヤ (輝かしい太陽), 565. サヒシユヌ (忍耐強い
者), 566. ガティ・サッタマ (帰趨の中で最善の者),

sudhanvā khaṇḍaparaśur dāruṇo draviṇapradah,

divasprk sarvadrg vyāso vācaspatir ayonijaḥ. (74)

567. スダンヴァン (良い弓をもつ者), 568. カンダ・パラシュ (壊れた斧をも
つ者), 569. ダルナ (残忍な者), 570. ドラヴィナ・プラダ (資産を与える者),
571. ディヴァ・スプリシュ (天界に触れる者), 572. サルヴァ・ドリシュ・ヴィ
ヤーサ (一切を見る配列者), 573. ヴァーチャス・パティ (ル)・アヨーニ・ヂヤ (母
胎から生まれた者ではない言葉の主),

trisāmā sāmagah sāma nirvāṇaṃ bheṣajaṃ bhiṣak,

saṃnyāsakṛc chamaś sānto niṣṭhā sāntiḥ parāyaṇam. (75)

574. トリ・サーマン (三つの歌詠をもつ者), 575. サーマ・ガ (歌詠を歌う者),
576. サーマン (歌詠), 577. ニルヴァーナ (涅槃), 578. ベーシヤヂヤ (薬), 579.
ビシヤツヂ (医師), 580. サンニヤーサ・クリト (放下をなす者), 581. シヤマ (平
静), 582. シヤンタ (寂靜な者), 583. ニシユター (専心), 584. シヤンティ
(寂靜), 585. パラヤナ (最終目的, 帰依所),

śubhāṅgaḥ sāntidaḥ sraṣṭā kumudaḥ kuvaleśayaḥ,

gohito gopatir goptā vṛṣabhākṣo vṛṣapriyaḥ. (76)

586. シュパンガ (美しい肢体をもつ者), 587. シヤンティ・ダ (寂靜を与える
者), 588. スラシュトリ (創造者), 589. クムダ (白蓮華), 590. クヴァレー・

シャヤ (青蓮華に横たわる者), 591. ゴー・ヒタ (牛の福祉をもつ者), 592. ゴー・パティ (牛飼い), 593. ゴーブトリ (保護する者), 594. ヴリ[・]シャ[・]バ[・]ク[・]シャ (雄牛の目をもつ者), 595. ヴリ[・]シャ[・]・プリヤ (雄牛のお気に入り),

anivartī nivṛttātmā saṃkṣeptā kṣemakṛc chivaḥ,

śrīvatsavaksāḥ śrīvāsaḥ śrīpatih śrīmatām varaḥ. (77)

596. アニヴァルティン (隠遁していない者), 597. ニヴリッタートマン (靈魂を帰還させた者), 598. サンク[・]シェ[・]プトリ (収縮させる者), 599. ク[・]シェ[・]マ[・]クリト (安穩を作る者), 600. シヴァ (吉祥者), 601. シュリー[・]・ヴァ[・]ツツア[・]・ヴァク[・]シャス (シュリー[・]・ヴァ[・]ツツアを胸に描いた者), 602. シュリー[・]・ヴァ[・]サ (シュリーの住居である者), 603. シュリー[・]・パティ (シュリーの主), 604. シュリー[・]マ[・]ターン[・]・ヴァ[・]ラ (神々たちの中の最上の者),

śrīdaḥ śrīśaḥ śrīnivāsaḥ śrīnidhiḥ śrīvibhāvanaḥ,

śrīdharah śrīkaraḥ śreyah śrīmāml lokatrayāśrayah. (78)

605. シュリー[・]・ダ (シュリーを与える者), 606. シュリー[・]シャ (シュリーの主), 607. シュリー[・]・ニヴァ[・]サ (シュリーの住まい), 608. シュリー[・]・ニ[・]ヱ[・]イ (シュリーの蔵), 609. シュリー[・]・ヴィ[・]バ[・]ヴァ[・]ナ (シュリーを顕現させる者), 610. シュリー[・]・ダ[・]ラ (シュリーを保持する者), 611. シュリー[・]・カラ (シュリーを作る者), 612. シュ[・]レー[・]ヤス (優れた者), 613. シュリー[・]マ[・]ット (シュリーに満ちあふれる者), 614. ロー[・]カ[・]・トラ[・]ヤ[・]・シュ[・]ラ[・]ヤ (三界の拠り所),

svakṣaḥ svaṅgaḥ śātānando nandir jyotirgaṇeśvaraḥ,

vijitātmā vidheyātmā satkīrtiś chinnaśaṃsayah. (79)

615. スヴァク[・]シャ (良い眼をもつ者), 616. スヴァ[・]ンガ (良い体肢をもつ者), 617. シャ[・]ター[・]ナン[・]ダ (百の歡喜をもつ者), 618. ナン[・]ディ (喜び), 619. ゴ[・]ヨー[・]ティ[・]ル[・]・ガ[・]ネ[・]・シュ[・]ヴァ[・]ラ (恒星の集まりの主宰者), 620. ヴィ[・]ヂ[・]イ[・]ター[・]トマン (靈魂を征服した者), 621. ヴィ[・]ヂ[・]エ[・]ヤ[・]トマン (靈魂を定置した者), 622. サ[・]ット[・]・キ[・]ール[・]ティ (聖者という (／＼) 善い) 名声をもつ者), 623. チ[・]ン[・]ナ[・]・サン[・]シャ[・]ヤ (疑念を断ち切った者),

udīrṇaḥ sarvataścakṣur anīśaḥ śāśvatasthiraḥ,

bhūśayo bhūṣaṇo bhūtir viśokaḥ śokaṇāśanaḥ. (80)

624. ウ[・]ディ[・]ール[・]ナ (高揚した者), 625. サ[・]ル[・]ヴァ[・]タ[・]シュ[・]・チャ[・]ク[・]シュ[・]ス (一切

の方向に眼を配る者), 626. アニーシャ (誰にも支配されない者), 627. シャーシュ
ヴァタ・スティラ (永遠に動かない者), 628. ブー・シャヤ (大地に寝そべる者),
629. ブーシャナ (装飾), 630. ブーティ (幸運), 631. ヴィショウカ (苦悩のない
者), 632. ショウカ・ナーシャナ (苦悩を滅する者),

arcismān arcitaḥ kumbho viśuddhātmā viśodhanaḥ,

aniruddho 'pratirathaḥ pradyumno 'mitavikramaḥ. (81)

633. アルチシュマツト (光線に満ちあふれる者), 634. アルチタ (崇拜される
者), 635. クンバ (水瓶), 636. ヴィシュッダートマン (浄化した靈魂をもつ者),
637. ヴィショウダナ (浄化する者), 638. アニルッダ (妨げられることのない者),
639. アプラティラタ (向かってくる戦車のいない者), 640. プラドユムナ (強力
な者), 641. アミタ・ヴィクラマ (測定不能の闊歩をなす者),

kālaneminihā vīraḥ sūraḥ śaurir janeśvaraḥ,

trilokātmā trilokeśaḥ keśavaḥ keśihā hariḥ. (82)

642. カーラ・ネーミ・ニハン (魔物を倒す者), 643. ヴィーラ (勇者), 644. シュー
ラ (勇者), 645. シャウリ・ヂャネーシュヴァラ (シューラ族出身の人民の主宰者),
646. トリ・ローカートマン (三界を靈魂にもつ者), 647. トリ・ローケーシャ (三界
の主), 648. ケーシャヴァ (美髪の者), 649. ケーシ・ハン (ケーシンを殺す者),
650. ハリ (神名)⁴⁰,

kāmaveḥ kāmāpālaḥ kāmī kāntaḥ kṛtāgamaḥ,

anirdeśyavapur viṣṇur vīro 'nanto dhanamjayaḥ. (83)

651. カーマ・デーヴァ (カーマ神), 652. カーマ・パーラ (カーマを守護する
者), 653. カーミン (愛欲をもつ者), 654. カンタ (魅力的な者), 655. クリ
ターガマ (聖典を作った者), 656. アニルデーシャ・ヴァプス (肉体を特定で
きない者), 657. ヴィシュヌ (神名), 658. ヴィーラ (勇者), 659. アナンタ
(限界/限定のない者), 660. ダナン・ヂャヤ (財産を勝ち取る者),

brahmaṇyo brahmakṛd brahmā brahma brahmavivardhanaḥ,

brahmaivid brāhmaṇo brahmī brahmajño brāhmaṇapriyaḥ. (84)

661. ブラフマニヤ (ブラフマンに由来する者), 662. ブラフマ・クリト (ブラ
フマンを作る者), 663. ブラフマン (梵天 m.), 664. ブラフマン (真言の実現力

⁴⁰ 「[肌が] 黄褐色の者」を意味する語が固有名詞化したもの。

n.), 665. ブラフマ・ヴィヴァルダナ (ブラフマンを增強する者), 666. ブラフマ・ヴィッド (ブラフマンを知る者), 667. ブラフマナ (ブラフマンに携わる者, バラモン), 668. ブラフミン (ブラフマンを有する者), 669. ブラフマ・ギヤ (ブラフマンを知る者), 670. ブラフマナ・プリヤ (バラモンのお気に入り),

mahākramo mahākarmā mahātejā mahoragaḥ,

mahākṛatur mahāyajvā mahāyajño mahāhaviḥ. (85)

671. マハー・クラマ (偉大な闊歩をなす者), 672. マハー・カルマン (偉大な行為をなす者), 673. マハー・テヂャス (偉大な光熱力をもつ者), 674. マホーラガ (偉大な蛇), 675. マハー・クラトゥ (偉大な精神力をもつ者), 676. マハー・ヤヂヴァン (偉大な祭官), 677. マハー・ヤッギヤ (偉大な祭祀をなす者), 678. マハー・ハヴィス (偉大な焼き供をもつ者),

stavayaḥ stavapriyaḥ stotraṃ stutiḥ stotā raṇapriyaḥ,

pūrṇaḥ pūrayitā puṇyaḥ puṇyakīrtir anāmayaḥ. (86)

679. スタヴィヤ (讃歌に値する者), 680. スタヴァ・プリヤ (讃歌のお気に入り), 681. ストトラ (讃歌), 682. ストゥティ (頌歌), 683. ストトリ (讃歌詠唱者), 684. ラナ・プリヤ (合戦のお気に入り), 685. プルナ (満たされた者), 686. プライトリ (満足させる者), 687. プニヤ (福德, 功德), 688. プニヤ・キールティ (福德あるとの名声をもつ者), 689. アナーマヤ (病気の無い者),

manojavaḥ tīrthakaro vasuretā vasupradaḥ,

vasuprado vāsudevo vasur vasumanā haviḥ. (87)

690. マノ・チャヴァ (心のように速い者), 691. ティールタ・カラ ([彼岸への] 渡し場を作る者), 692. ヴァス・レータス (黄金の精子をもつ者), 693. ヴァス・プラダ (富を与える者), 694. ヴァス・プラダ (富を与える者), 695. ヴァスデーヴァ (神名), 696. ヴァス (神名), 697. ヴァス・マナス (富の [ように豊かな] 心をもつ者), 698. ハヴィス (焼き供),

sadgatiḥ satkṛtiḥ sattā sadbhūtiḥ satparāyaṇaḥ,

sūraseno yaduśreṣṭhaḥ sannivāsaḥ suyāmunāḥ. (88)

699. サッド・ガティ (聖者たちの帰趨), 700. サット・クリティ (聖者たちの行為をもつ者), 701. サッター (聖性/聖者性), 702. サッド・ヅーティ (聖者たちの幸運をもつ者), 703. サット・パラヤナ (聖者たちの拠り所), 704. シュー

ラ・セーナ (勇者から成る軍隊をもつ者), 705. ヤドゥ・シュレ^レ・シュタ (ヤドゥ族の中の最勝者), 706. サン・ニヴァーサ (聖者たちの宿), 707. スヤムナ (ヤムナ河出身の良い者),

bhūtāvāso vāsudevaḥ sarvāsūnilayo 'nalaḥ,

darpaḥ darpado dṛpto durdharo 'thāparājitaḥ. (89)

708. ^ブターヴァーサ (存在物の住まい), 709. ヴァースデーヴァ (神名), 710. サルヴァース・ニラ^レヤ (一切の氣息の住居), 711. アナ^レ (火), 712. ダルパ・ハン (傲慢さを滅した者), 713. ダルパ・ダ (自負心を与える者), 714. ドリ^レブタ (誇り高い者), 715. ドウル^ダラ (保持し難い者), 716. アパラ^レディタ (敗北することのない者),

viśvamūrtir mahāmūrtir dīptamūrtir amūrtimān,

anekamūrtir avyaktāḥ śatamūrtiḥ śātānaḥ. (90)

717. ヴィシュヴァ・ムルティ (あらゆる者の顕現), 718. マハー・ムルティ (偉大な顕現をもつ者), 719. ディ^レプタ・ムルティ (輝く顕現をもつ者), 720. アムルティマツ (いかなる顕現ももたない者), 721. アネカ・ムルティ (多くの顕現をもつ者), 722. アヴィヤクタ (非顕現の者), 723. シャタ・ムルティ (百の顕現をもつ者), 724. シャター^レナナ (百の顔をもつ者),

eko naikaḥ savaḥ kaḥ kiṃ yat tat padam anuttamam,

lokabandhur lokanātho mādhave bhaktavatsalaḥ. (91)

725. エカ (唯一者), 726. ナイカ (多者), 727. サヴァ (刺激者/圧搾/祭式), 728. カ^レ (誰), 729. キム (何), 730. ヤッド (～である者), 731. タッド (それ), 732. パダ^レ・アヌッタマ (最上の語), 733. ローカ・バンド^レウ (世間を親類としてもつ者), 734. ローカ・ナ^レタ (世間の統率者), 735. マ^レダ^レヴァ (マドゥ族の後裔), 736. バ^レクタ・ヴァツ^レア^レラ (感服者に対して [親としての] 愛情をもつ者),

suvarṇavarṇo hemāṅgo varāṅgaś candanāṅgadī,

vīrahā viśamaḥ śūnyo ghr̥tāśīr acalāś calaḥ. (92)

737. スヴァ^レル^レナ・ヴァ^レル^レナ (黄金の色をもつ者), 738. ヘ^レマ^レンガ (金の体肢をもつ者), 739. ヴァ^レラ^レンガ (勝れた体肢をもつ者), 740. チャンダ^レナンガ^レディン (梅檀の香りがする腕輪をつけた者), 741. ヴィ^レラ・ハン (勇者を殺す者),

742. ヴィシヤマ (不平等な者⁴¹), 743. シューニヤ (空なる者⁴²), 744. グリターシス (祝福を濯がれた者), 745. アチャラ (不動の者), 746. チャラ ([三界を] 移動する者),

amānī mānado mānyo lokasvāmī trilokadhṛtī, [1.=Ay.R.; dhṛk C.]

sumedhā medhajo dhanyaḥ satyamedhā dharādharah. (93)

747. アマ-ニン (高慢さをもたない者), 748. マ-ナ・ダ (誇りを与える者), 749. マ-ニヤ (尊敬に値する者), 750. ローカ・スヴァ-ミン (世間の所有者), 751. トリ・ローカ・ドリト (三界の保持者), 752. スメ-ダス (良い知性をもつ者), 753. メ-ダ・チャ (知性から生じた者), 754. ダニヤ (裕福な者), 755. サッティヤ・メ-ダス (真実の知性をもつ者), 756. ダラ-ダラ (大地を保持する者),

tejo vṛṣo dyutidharah sarvaśastrabhṛtām varah,

pragraho nīgraho 'vyagro naikaśrīṅgo gadāgrajah. (94)

757. テ-ジョ-ヴリシヤ (光熱力たる雄牛), 758. ドユティ・ダラ (輝きを保持する者), 759. サルヴァ・シャストラ・ブリタン・ヴァラ (一切の武器を保持する者の中で最上の者), 760. プラグラハ (持つ者), 761. ニグラハ (捕らえる者), 762. アヴィヤグラ (心が散漫になることのない者), 763. ナイカ・シュリンガ (多くの角をもつ者), 764. ガダ-グラ・チャ (ガダの兄),

caturmūrtiś caturbāhuś caturvyūhaś caturgatih,

caturātmā caturbhāvaś caturvedavid ekapāt. (95)

765. チャトゥル・ムルティ (四つの顕現をもつ者), 766. チャトゥル・パーフ (四本の腕をもつ者), 767. チャトゥル・ヴィニューハ (四種の顕現をもつ者), 768. チャトゥル・ガティ (四つの帰趨をもつ者), 769. チャトゥラ-トマン (賢明なる靈魂をもつ者), 770. チャトゥル・バ-ヴァ (四つの性質をもつ者), 771. チャトゥル・ヴェ-ダ・ヴィッド (四ヴェ-ダを知る者), 772. エ-カ・パッド (一つの詩脚/足をもつ者),

samāvarto 'nivr̥tātāmā durjayo duratikramah,

durlabho durgamo durgō durāvāso durārihā. (96)

⁴¹ 「凡夫には一見不平等に見える行為をする者」の意味と推察される。この語の背後には、「全知全能の神のはたらきを我々が知的に理解することなどできないので、bhakti- (感服) が必要となる」というような文脈が想定される。

⁴² 「心や行動に私心のない者」の意味と推察される。

773. サマ-ヴァルタ (帰る者), 774. アニヴリッタートマン (靈魂を帰還させていない者⁴³), 775. ドウルヂャヤ (打ち勝ち難い者), 776. ドウラティクラマ (超越しがたい者), 777. ドウラ^ラバ (獲得しがたい者), 778. ドウルガマ (到達しがたい者), 779. ドウルガ (近づきがたい者), 780. ドウラ-ヴァ-サ ([その住居に] 住みがたい者), 781. ドウラ-リ・ハン⁴⁴ (悪い敵を殺す者(?)),

śubhāṅgo lokasāraṅgaḥ sutantus tantuwardhanaḥ,

indrakarmā mahākarmā kṛtakarmā kṛtāgamaḥ. (97)

782. シュバ^ンガ (美しい肢体をもつ者), 783. ローカ・サーランガ (世間におけるカモシカ), 784. スタントウ (良い血統をもつ者), 785. タントウ・ヴァルダナ (縦糸 (／血統) を張り巡らせる者), 786. インドラ・カルマン (インドラの行動をおこなう者), 787. マハ-カルマン (偉大な行為をなす者), 788. クリタ・カルマン (偉大な行為をなした者), 789. クリタ-ガマ (聖典を作った者),

udbhavaḥ sundaraḥ sundo ratnanābhaḥ sulocanaḥ,

arke vājasanaḥ śṛṅgī jayantaḥ sarvavij jayī. (98)

790. ウドバ^{ヴァ} (起源), 791. スンダラ (見目麗しい者), 792. スンダ (神名), 793. ラトナ・ナ^バ (宝石を膺にもつ者), 794. スロー^{チャ}ナ (良い眼をもつ者), 795. アルカ (讃歌), 796. ヴァ-ヂャサナ (競争で勝つ者), 797. シュリンギン (角をもつ者), 798. ジャヤンタ ([常に] 勝利する者), 799. サルヴァ・ヴィッ^{チャ}イン (一切を知る勝者),

suvarṇabindur akṣobhyaḥ sarvavāgīśvareśvaraḥ,

mahāhrado mahāgarto mahābhūto mahānidhiḥ. (99)

800. スヴァルナ・ビン^{ドゥ} (黄金の印をもつ者), 801. アクショ^ビヤ (動揺することのない者), 802. サルヴァ・ヴァ-ギ-シュヴァレ-シュヴァラ (一切の雄弁なる者たちの中の主宰者), 803. マハ-フラダ (大きな湖), 804. マハ-ガルタ (大きな洞窟), 805. マハ-ブ^タ (偉大な存在物, 大元素), 806. マハ-ニ^デイ (大きな蔵),

⁴³ 「常に三界に顕現している者」の意味と推察される。

⁴⁴ *durārihan-*という語の用例は, Skt. 文献を検索した限りでは, この箇所のみである。 *metri causa* により, *durārihan-* → *durārihan-* となったのであろうか。また, *durāri-* を固有名詞ととれば, 「ドゥラーリを殺す者」の意となる。

kumudaḥ kundaraḥ kundaḥ parjanyaḥ pāvano'nilaḥ,

amṛtāṃśo 'mṛtavapuḥ sarvajñaḥ sarvatomukhaḥ. (100)

807. クムダ (白蓮華), 808. クンダラ (ジャスミンの香りがする者(?)), 809. クンダ (ジャスミン), 810. パリヂャニヤ (雲), 811. パーヴァナ (清める者), 812. アニラ (風), 813. アムリターンシャ (不死の甘露という分け前をもつ者), 814. アムリタ・ヴァプス (不死の肉体をもつ者), 815. サルヴァ・ギャ (一切を知る者), 816. サルヴァト・ムカ (一切の方向に顔を向ける者),

sulabhaḥ suvrataḥ siddhaḥ śatrujic chatrutāpanaḥ,

nyagrodhodumbaro'śvatthaś cāṇūrāndhraniṣūdanaḥ. (101)

817. スラバ (容易に獲得できる者), 818. スヴラタ (良い誓戒をもつ者), 819. スィッタ (成就者), 820. シャトル・ディット (敵に勝利する者), 821. シャトル・ターパナ (敵を苦しめる者), 822. ニヤグロダ (〈樹木名〉イチジクの種類), 823. ウドゥンバラ (〈樹木名〉イチジクの種類), 824. アシュヴァッタ (〈樹木一種〉イチジクの木), 825. チャヌーランドラ・ニシュダナ (アンドラ族のチャーヌーラを殺す者),

sahasrārciḥ saptajihvaḥ saptaidhāḥ saptavāhanaḥ,

amūrtir anagho 'cintyo bhayakrd bhayanāśanaḥ. (102)

826. サハスラルチス (千の光線をもつ者), 827. サプタ・ディフヴァ (七つの舌を持つ者=火), 828. サプタイダス (七つの燃料をもつ者), 829. サプタ・ヴァーハナ (七頭の馬をもつ者), 830. アムルティ (非顕現の者), 831. アチンティヤ (不可思議な者), 832. アナガ (罪のない者), 833. バヤ・クリト (恐怖の作り手), 834. バヤ・ナシャナ (恐怖を滅する者),

aṅur bṛhat kṛṣaḥ sthūlo guṇabhṛn nirguṇo mahān,|

adhṛtaḥ svadhṛtaḥ svāsyāḥ prāgvamśo vaṃśavardhanaḥ. (103)

835. アヌ (微細な者), 836. ブリハット (巨大な者), 837. クリシャ (薄い者=非物質的な者), 838. ストゥーラ (良い体格の者), 839. グナ・ブリティ (三徳を保持する者), 840. ニル・グナ (属性をもたない者), 841. マハット (大=mahābhūta), 842. アドリタ (保持者のいない者), 843. スヴァドリタ (自身のみで保持される者), 844. スヴァーシヤ (良い顔をもつ者), 845. プラグ・ヴァンシャ (最初の家系である者), 846. ヴァンシャ・ヴァルダナ (家系を繁栄させ

る者),

bhārabhṛt kathito yogī yogīśaḥ sarvakāmadah,

āśramah śramaṇaḥ kṣāmaḥ suparṇo vāyuvāhanaḥ. (104)

847. バーラ・ブリト (荷物を保持する者), 848. カティタ ([伝説として] 語られた者), 849. ヨーギン (実修者), 850. ヨーギーシャ (実修者の主), 851. サルヴァ・カマ・ダ (一切の欲望を叶える者), 852. ア・シュラマ (修行庵), 853. シュラマナ (修行者, 沙門), 854. ク・シャマ (焦げた [色をした] 者), 855. スパルナ (鳥名) 鷲, 856. ヴァ・ユ・ヴァ・ハナ (風を運ぶ者=ガルダ鳥),

dhanurdharo dhanurvedo daṇḍo damayitā damaḥ,

aparājitaḥ sarvasaḥo niyantā niyamo yamaḥ. (105)

857. ダ・ヌル・ダ・ラ (弓を保持する者), 858. ダ・ヌル・ヴェ・ダ (弓の技術をもつ者), 859. ダンダ (刑罰, 棍棒), 860. ダ・マイ・トリ (調教者), 861. ダ・マ (調教), 862. ア・パ・ラ・チ・タ (敗北することのない者), 863. サルヴァ・サ・ハ (一切が可能なる者), 864. ニ・ヤ・ント・リ (節制する者), 865. ニ・ヤ・マ (節制), 866. ヤ・マ (禁戒),

sattvavān sāttvikaḥ satyaḥ satyadharmaparāyaṇaḥ,

abhiprāyaḥ priyārho'rhaḥ priyakṛt pṛtivarhanaḥ. (106)

867. サ・ット・ヴァ・ヴァ・ット (純質を有する者), 868. サ・ット・ヴィ・カ (純質性の者), 869. サ・ッ・ティ・ヤ (真実), 870. サ・ッ・ティ・ヤ・ダ・ル・マ・パ・ラ・ヤ・ナ (真実の正法の拠り所), 871. ア・ビ・プ・ラ・ヤ ([人々の] 最終目的), 872. プ・リ・ヤ・ル・ハ (敬愛に値する者), 873. ア・ル・ハ ([礼拝に] 値する者), 874. プ・リ・ヤ・ク・リ・ト (敬愛の作り手), 875. プ・リ・ティ・ヴァ・ル・ダ・ナ (喜びを増大させる者),

vihāyasagatir jyotiḥ surucir hutabhug vibhuḥ,

ravir virocanaḥ sūryaḥ savitā ravilocanaḥ. (107)

876. ヴィ・ハ・ヤ・サ・ガ・ティ (鳥の帰趨をもつ者), 877. ヂ・ョ・テ・イス (光輝), 878. ス・ル・チ (良い輝き/好みをもつ者), 879. フ・タ・ヅ・ヂ (焼き供を食べる者), 880. ヴィ・ヅ (異なる形で現われる者), 881. ラ・ヴィ (太陽), 882. ヴィ・ロ・チ・ヤ・ナ (輝く者/太陽), 883. ス・リ・ヤ (太陽), 884. サ・ヴィ・ト・リ (神名)⁴⁵, 885. ラ・ヴィ・ロ・チ・ヤ・ナ (太陽という眼をもつ者),

⁴⁵ 「駆立てる者」を意味する語が固有名詞化したもの。

ananto hutabhug bhoktā sukhado naikado 'grajaḥ,

anirviṇṇaḥ sadāmarṣī lokādhiṣṭhānam adbhutam. (108)

886. アナンタ (限界／限定のない者), 887. フタ・ブヂ (焼き供を食べる者),
888. ボークトリ (食べる者), 889. スカ・ダ (幸福感を与える者), 890. ナイカ・
ダ (多くのものを与える者), 891. アグラ・ヂャ (最初に生まれる者=ヒラニヤ・
ガルバ), 892. アニルヴィンナ (落胆することのない者), 893. サダー・マルシン
(常に耐え忍ぶ者), 894. ローカ・ディシュタナ (世間の拠り所), 895. アドブタ
(奇蹟),

sanāt sanātanatamaḥ kapilaḥ kapir avyayaḥ,

svastidaḥ svastikṛt svasti svastibhuk svastidakṣiṇaḥ. (109)

896. サナート (太古の者), 897. サナ・タナタマ (最古の者), 898. カピラ (固
有名詞), 899. カピ (猿), 900. アヴィヤヤ (不滅の者), 901. スヴァスティ・
ダ (安寧を与える者), 902. スヴァスティ・クリト (安寧の作り手), 903. スヴァ
スティ (安寧), 904. スヴァスティ・ブヂ (安寧を享受する者), 905. スヴァス
ティ・ダクシナ (安寧に対して巧みな者),

araudraḥ kuṇḍalī cakrī vikramy ūrjitaśāsanah,

śabdātigaḥ śabdasaḥaḥ śiśiraḥ śarvarīkaraḥ. (110)

906. アラウドラ (恐ろしくない者), 907. クンダリン (とぐるを巻く者), 908.
チャックリン (円輪をもつ者), 909. ヴィクラミン (闊歩をなす者／勇気ある者),
910. ウルヂイタ・シャ・サナ (勇猛な教育をなす者), 911. シャブダーティガ (言
葉を超える者), 912. シャブダ・サハ ([いかなる] 言葉も耐え忍ぶ者), 913. シ
シラ (寒冷季), 914. シャルヴァリー・カラ (星空を作る者),

akrūraḥ peśalo dakṣo dakṣiṇaḥ kṣamiṇām varaḥ,

vidvattamo vītabhayaḥ puṇyaśravaṇakīrtanaḥ. (111)

915. アクルーラ (残酷でない者), 916. ペーシャラ (優美な者), 917. ダクシャ
(巧みな者), 918. ダクシナ (巧みな者), 919. クシャミナ・ン・ヴァラ (忍耐力
ある者たちの中の最上の者), 920. ヴィドヴァッタマ (最上の学者), 921. ヴィー
タ・バヤ (恐怖の消えた者), 922. プニヤ・シュラヴァナ・キルタナ ([その名
を] 聴くこと・称えることに福德ある者),

pramāṇaṃ prāṇanilayaḥ prāṇabhṛt prāṇajīvanaḥ,

tattvaṃ tattvavid ekātmā janmamṛtyujarātigah. (116)

959. プラマ-ナ (判断根拠), 960. プラ-ナ・ニラヤ (氣息の住所), 961. プラ-ナ・ヅリト (氣息を保持する者), 962. プラ-ナ・ディ-ヴァナ (氣息によって生かす者), 963. タットヴァ (真理), 964. タットヴァ・ヴィッド (真理を知る者), 965. エ-カートマン (唯一の靈魂をもつ者), 966. チャンマ・ムリティユ・チャラ-ティガ (出生と死と老衰を超越する者),

bhūrbhuvahṣvastarus tāraḥ savitā prapitāmahaḥ,

yajño yajñapatir yajvā yajñāṅgo yajñavāhanaḥ. (117)

967. ブル・ブヴァ^・スヴァス・タル (ブル・ブヴァ^・スヴァ^を樹木とする者⁴⁷), 968. ターラ (堤), 969. サヴィトリ (神名), 970. プラピターマハ ([父方の] 曾祖父), 971. ヤッギヤ (祭祀), 972. ヤッギヤ・パティ (祭祀の主神), 973. ヤヂヴァン (祭官), 974. ヤッギヤ-ンガ (祭祀を体肢とする者), 975. ヤッギヤ・ヴァ-ハナ (供物を運ぶ者=火),

yajñabhṛd yajñakṛd yajñī yajñabhug yajñasādhanah,

yajñāntakṛd yajñaguhyam annam annāda eva ca. (118)

976. ヤッギヤ・ヅリト (祭祀の保持者), 977. ヤッギヤ・クリト (祭祀執行者), 978. ヤッギン (祭祀/供物をもつ者), 979. ヤッギヤ・ヅヂ (供物を食べる者), 980. ヤッギヤ・サ-ダナ (祭祀の手段), 981. ヤッギヤ-ンタ・クリト (祭祀の果報の作り手), 982. ヤッギヤ・グヒヤ (祭祀の秘密), 983. アンナ (食物), 984. アンナ-ダ (食物を食べる者),

ātmayoniḥ svayamjāto vaikhānaḥ sāmagāyanaḥ,

devakīnandanaḥ sraṣṭā kṣītīśaḥ pāpanāśanaḥ. (119)

985. ア-トマ・ヨ-ニ (靈魂の母体), 986. スヴァヤン・チャ-タ (独りで生まれる者), 987. ヴァイカ-ナ (掘る者(?)), 988. サ-マ・ガ-ヤナ (歌詠を歌う者),

(Balarāma 等) は古くから貨幣の肖像として描かれてきたことから, Viṣṇu と貨幣との繋がりが意識されるようになったのであろうか (例えば, 平成時代の日本で「一万円」といえば福沢諭吉が連想されたのと似たような現象であらうか)。

⁴⁷ 即ち「祭祀 (yajña-)」を指す。bhūr bhuvah svah は, 祭祀において発声 (vyāhrti-) される聖句である。Viṣṇu と祭祀の関連は 971-982 に述べられる。また, この複合語は「地界・空界・天界の樹木である者」「三界に実りをもたらす者」という意味」という解釈も可能。

989. デーヴァキー・ナンダナ (デーヴァキーを喜ばせる者), 990. スラシュト^リ (創造者), 991. クシティーシャ (土地の主), 992. パーパ・ナーシャナ (罪業を滅する者),

śaṅkhabhṛn nandakī cakrī śārṅgadhanvā gadādharah,
rathāṅgapāṅir akṣobhyaḥ sarvapraharanāyudhaḥ. (120)

993. シャンカ・プリト (法螺貝を保持する者), 994. ナンダキン (ナンダカ [という名の剣] をもつ者), 995. チャックリン (円輪をもつ者), 996. シャーリング・ダンヴァン (角で作られた弓をもつ者), 997. ガダー・ダラ (棍棒を保持する者), 998. ラターンガ・パーニ (車輪の一部を手にもつ者), 999. アクショ^ビヤ (動揺することのない者), 1000. サルヴァ・プラハラナ^{ユダ} (一切の剣を武器としてもつ者)。

iḍaṃ kīrtanīyasya keśavasya mahātmanaḥ,
nāmnām sahasraṃ divyānām aśeṣeṇa prakīrtitaṃ (121)

以上, 称えられるべき者, 美髪^の者, 偉大な靈魂をもつ者のこの神々しい千の名前が, 余すことなく称えられました。

ya idaṃ śṛṇvān nityaṃ yaś cāpi parikīrtayet,
nāśubhaṃ prāpnuyāt kiṃcit so 'mutreha ca mānavaḥ. (122)

これを常に聞いて, そして称える人間は, 来世でも今生でもいかなる不幸に出会うことがないでしょう。

vedāntago brāhmaṇaḥ syāt kṣatriyo vijayī bhavet,
vaiśyo dhanasamṛddhaḥ syāc chūdraḥ sukham avāpnuyāt. (123)

[千名の読誦により] ブラフマナはヴェーダの究極に到り, クシャト^リヤは勝利するものとなり, ヴァイシヤは財産によって繁栄し, シュードラは, 幸福感に到達するでしょう。

dharmārthī prāpnuyād dharmam arthārthī cārtham āpnuyāt.
kāmaṃ avāpnuyāt kāmī prajārthī prāpnuyāt prajāṃ. (124)

正法を目的とする者は正法に到達し, 実利を目的とする者は実利に到達し, 愛欲を有する者は愛欲の対象に到達し, 子孫を目的とする者は子孫に到達するでしょう。

bhaktimān yaḥ sadotthāya śucis tadgatamānaśaḥ,
sahasraṃ vāsudevasya nāmnām etat prakīrtayet. (125)

感服に満ちあふれる、清浄なる者は常に努力をして彼の中に心を向けて、このヴァースデーヴァの千の名前を称えるべきです。

yaśaḥ prāpnoti vipulaṃ jñātiprādhānyam eva ca,
acalām śriyam āpnoti śreyaḥ prāpnoty anuttamam. (126)

[そうすれば] 彼は大きな名声と、ほかならぬ親族に対する支配権を獲得し、不動の栄光に到達し、無上の至福を獲得します。

na bhayaṃ kvacid āpnoti vīryaṃ tejaś ca vindati,
bhavaty arogo dyutimān balarūpaḡaṇvītaḥ. (127)

彼は、いかなる恐怖を得ることもなく、勇力と光熱力を獲得し、戦闘力と美しい外見と美德を伴う輝かしい人となり、無病となります。

rogārto mucyate rogād baddho mucyeta bandhanāt,
bhayān mucyeta bhītas tu mucyetāpanna āpadaḥ. (128)

病気に苦しむ人は、病気から解放され、束縛された人は、束縛から解放され、怯えた人は、恐怖から解放され、苦難に陥った人は、苦難から解放されます。

durgāny atitaraty āśu puruṣaḥ puruṣottamam,
stuvan nāmasahasreṇa nityaṃ bhaktisamanvītaḥ. (129)

最上の人を千の名前によって称讃する、常に感服を完備した人は、速やかに難所を越えるのです。

vāsudevāśrayo martyo vāsudevaparāyaṇaḥ,
sarvapāpaviśuddhātmā yāti brahma sanātanam. (130)

ヴァースデーヴァを帰依所とし、ヴァースデーヴァを避難所とする人は、一切の罪業を浄めた靈魂をもつ者となり、永遠のブラフマンに赴きます。

na vāsudevabhaktānām aśubhaṃ vidyate kvacit,
janmamṛtyujarāvyaḡhibhayaṃ vāpy upajāyate. (131)

ヴァースデーヴァに感服した者たちに、いかなる不幸も存在しません。誕生・死・老化・病気に関する恐れが生じることもありません。

imaṃ stavam adhīyānaḥ śraddhābhaktisamanvītaḥ,
yujyetātma sukhakṣāntiśrīdhṛtismṛtikīrtibhiḥ. (132)

信仰と感服を完備して、この讃歌を学習した者は、靈魂を幸福感・忍耐・栄光・決意・記憶・名声と結びつけるでしょう。

na krodho na ca mātsaryaṃ na lobho nāsubhā matiḥ,
bhavanti kṛtapuṇyānāṃ bhaktānāṃ puruṣottame. (133)

最上の人に対して、福德を作り、感服した者たちにとって、怒りや嫉妬や貪欲や汚れた考えが生じることはありません。

dyaus sacandrārkanakṣatrā khaṃ diśo bhūr mahodadhīḥ,
vāsudevasya vīryeṇa vidhṛtāni mahātmanaḥ. (134)

月・太陽・星を伴う天，中空，[四つの] 方角，大地，大海は，偉大なる靈魂をもつヴァースデーヴァの勇力によって，配置されています。

sasurāsuraḡandharvaṃ sayakṣoraḡarākṣasam,
jagad vaśe vartatedaṃ kṛṣṇasya sacarācaram. (135)

神々とアスラとガンダルヴァ，ヤクシヤ，蛇族，ラクシヤスを伴う，動・不動の者から成るこの衆生世界は，クリシュナの支配下に存在します。

indriyāni mano buddhiḥ sattvaṃ tejo balaṃ dhṛtiḥ,
vāsudevātmakāny āhuḥ kṣetraṃ kṣetrajña eva ca. (136)

感覚器官，心，知力，^{サットヴァ}純質，光熱力，戦闘力，決意は，ヴァースデーヴァを本質とする者であると言う人々がいます。また，土地（＝根本原質）と^{ブラクリティ}ほかならぬ土地を知る者（＝真人）も [ヴァースデーヴァを本質とする者である]。

sarvāgamānāṃ ācāraḥ prathamam parikalpyate,
ācāraprabhavo dharmo dharmasya prabhur acyutaḥ. (137)

一切の聖典の行儀は，最初に規定されているものです。行儀を起源とする正法は，正法の主であって [永遠に] 不滅です。

ṛṣayaḥ pitaro devā mahābhūtāni dhātavaḥ,
jaṅgamājaṅgamaṃ cedaṃ jagan nārāyaṇodbhavam. (138)

聖仙たち，祖靈たち，神々，大元素たち，[身体の] 構成要素たち，動く者・動かない者をもつこの衆生世界は，ナラヤナから生じます。

yogo jñānaṃ tathā sāmkyam vidyāḥ śilpādikarma ca,
vedāḥ śāstrāni vijñānam etat sarvaṃ janārdanaḥ. (139)

同様に，^{ヨーガ}実修，^{サンキヤ}知識，^{わざ}世界観，学識たち，職工等の技，諸ヴェエダ，諸教典，

識別力、この一切は、チャナルダナから [生じるのです]。

eko viṣṇur mahad bhūtaṃ pṛthagbhūtāny anekāśaḥ,

tīrṅl lokān vyāpya bhūtātmā bhuṅkte viśvabhug avyayaḥ. (140)

ヴィシュヌは、唯一の偉大な存在物であって、[同時に] 諸々の個別の存在物として種々の形で三界に浸透して、存在物を靈魂とする者は、あらゆることを享受（／経験）する不滅の者として享受（／経験）するのです。

imaṃ stavaṃ bhagavato viṣṇor vyāsenā kīrtitam,

paṭhed ya icchet puruṣaḥ śreyaḥ prāptuṃ sukhāni ca. (141)

至福と幸福感を獲得することを望む者は、ヴィヤーサによって述べられた福満者ヴィシュヌに対するこの讃歌を読誦すべきです。

viśveśvaram ajaṃ devaṃ jagataḥ prabhum avyayaṃ¹,

bhajanti ye puṣkarākṣaṃ na te yānti parābhavam. (142)

[1. =Ay.; prabhavāpyayam An.C.L.N.]

あらゆる者の主宰者であり、不生の神であり、衆生の主であり、不滅の者である、青蓮華の眼をもつ者に感服する者たちが失意に赴くことはありません。

神名索引 (Sanskrit-Japanese)

(※ 尚, Anusvāra の配列は m の後とし, Visarga の配列は s の後とした。)

akṣara- (不滅の者) 17, 481
 akṣobhya- (動揺することのない者)
 801
 agraja- (最初に生まれる者=ヒラニ
 ヤ・ガルバ) 891
 aṇu- (微細な者) 835
 akrūra- (残酷でない者) 915
 agrañī- (先導者) 218
 agrāhya- (把握不能の者) 55
 acala- (不動の者) 745
 acintya- (不可思議な者) 831
 acyuta- (不滅の者) 100, 318
 aja- (不生の者) 95, 204, 521
 ajita- (征服不能の者) 549
 atindra- (インドラを超えた者) 157
 atindriya- (感覚器官を超えた者) 169
 atula- (比類なき者) 355
 adṛśya- (見ることのできない者) 304
 adbhuta- (奇蹟) 895
 adhiṣṭhāna- (拠り所/加持力) 324
 adhṛta- (保持者のいない者) 842
 adhokṣaja- (車軸の下で生まれた者)
 415
 anagha- (罪のない者) 146, 832
 ananta- (限界/限定のない者) 659,
 886
 anantajit- (無数 [の敵] に勝利する
 者) 307
 anantarūpa- (無限の姿をもつ者) 932
 anantaśrī- (無限のシュリーをもつ者)
 933

anantātman- (無限の靈魂をもつ者)
 518
 anaya- (導く者のいない者) 400
 anartha- (意味ならざる者) 431
 anala- (火) 293, 711
 anādi- (始まりをもたない者) 941
 anādinidhana- (無始無滅の者) 42
 anāmaya- (病気のない者) 689
 animiṣa- (まばたきをしない者) 215
 aniruddha- (妨げられることのない
 者) 185, 638
 anirviṇṇa- (落胆することのない者)
 435, 892
 anirdeśyavapus- (肉体を特定できない
 者) 177, 656
 anila- (風) 234, 812
 anivartin- (隠遁していない者) 596
 anivṛttātman- (靈魂を帰還させていな
 い者) 774
 anīśa- (誰にも支配されない者) 626
 anumūla- ([誰に対しても] 親切な者)
 342
 anuttama- (無上の者) 80
 anekamūrti- (多くの顕現をもつ者)
 721
 antaka- (終りをもたらす者) 520
 anna- (食物) 983
 annāda- (食物を食べる者) 984
 aparājita- (敗北することのない者)
 716, 862
 apāṃ nidhi- (水たちの容器) 323

- apratiratha- (向かってくる戦車のいない者) 639
 apramatta- (無頓着でない者) 325
 aprameya- (測定不能の者) 46
 aprameyātman- (測定不能の靈魂をもつ者) 248
 abhiprāya- ([人々の] 最終目的) 871
 amaraprabhu- (神々の支配者) 49
 amāmin- (高慢さをもたない者) 747
 amitavikrama- (測定不能の闊歩をなす者) 516, 641
 amitāśana- (無限に食べる者) 372
 amūr̥ti- (非顕現の者) 830
 amūr̥timat- (いかなる顕現ももたない者) 720
 amṛta- (不死の者／死者を持たない者) 119
 amṛtapa- (不死の甘露を飲む者) 504
 amṛtavapus- (不死の肉体をもつ者)
 amṛtāṁśa- (不死の甘露という分け前をもつ者) 813
 amṛtāṁśūdbhava- (月から生まれた者) 283
 amṛtyu- (不死なる者) 198
 ameyātman- (測定不能の靈魂をもつ者) 102
 amogha- (必ず願いを叶える者) 110, 154
 ambhonidhi- (水の器 (=海)) 517
 aravindākṣa- (蓮華という眼をもつ者) 347
 araudra- (恐ろしくない者) 906
 arka- (讃歌) 795
 arcita- (崇拜される者) 634
 arcīṣmat- (光線に満ちあふれる者) 633
 artha- (意味, 価値) 430
 avijñātr- (識別しない者) 482
 avyakta- (非顕現の者) 722
 avyagra- (心が散漫になることのない者) 762
 avyaṅga- (肢体の不自由がない者) 129
 avyaya- (不滅の者) 13, 902
 aśoka- (苦悩のない者) 336
 aśvattha- (〔樹木名〕 イチジクの一 種) 824
 asat- (非存在) 479
 asaṁkhyeya- (数えられない／評価不能の者) 247
 asaṁmita- (測定不能の者) 108
 ahan- (日) 90
 ahaḥsaṁvartaka- (日を回す者) 232
 ātmayoni- (靈魂の母体) 985
 ātmavat- (靈魂をもつ者) 84
 āditya- (アディティの子孫, 太陽) 39, 563
 ādideva- (最初の神) 334, 490
 ādhāranilaya- (基礎の住所) 950
 ānanda- (歓喜) 526
 ānandin- (歓喜をもつ者) 560
 āvartana- (回転させる／攪拌する者) 228
 indrakarman- (インドラの行動をおこなう者) 786
 ijya- (祭られるべき者) 446
 iṣṭa- (信愛なる者／お祀りしている神) 308
 īśāna- (支配者) 64

īśvara- (主宰者) 36, 74
ugra- (厳格な者) 421
uttara- (最上の者) 494
uttāraṇa- ([輪廻の海から] 救済する者) 923
udīrṇa- (高揚した者) 624
udumbara- ((樹木名) イチジクの一 種) 823
udbhava- (起源) 373, 790
upendra- (インドラの弟) 151
ūrjita- (滋養を得た者) 156
ūrjitaśāsana- (勇猛な教育をなす者) 910
ūrdhvaga- (上方に進む者) 954
ṛtu- (季節) 416
ṛddha- (繁栄した者) 278, 351
eka- (唯一者) 725
ekapad- (一つの詩脚/足をもつ者) 772
ekātman- (唯一の靈魂をもつ者) 965
ojastejodyutidhara- (気力・光熱力・光輝を保持する者) 275
auśadha- (薬) 287
kathita- ([伝説として] 語られた者) 848
kanakāṅgadin- (黄金の腕輪をもつ者) 541
kapi- (猿) 899
kapila- (固有名詞) 898
kapīndra- (猿王) 501
karaṇa- (行為/手段) 378
kartṛ- (作り手/行為者) 380
kavi- (見者/詩人) 132
kaḥ (kim- Nom. sg.m.) (誰) 728
kānta- (魅力的な者) 296, 654

kāma- (願望 [そのもの]) 297
kāmakṛt- (願望を叶える者) 295
kāmadeva- (カ-マ神) 651
kāmapāla- (カ-マを守護する者) 652
kāmaprada- (願望を叶える者) 298
kāmahan- (愛欲を滅ぼす者) 294
kāmin- (愛欲をもつ者) 653
kāraṇa- (動因) 379
kāla- (時, 適時) 418
kim (kim- Nom. sg. n.) (何)
kālanaminihan- (魔物を倒す者) 642
kuṇḍalin- (とぐろを巻く者) 907
kunda- (ジャスミン) 809
kundara- (ジャスミンの香りがする者 (?)) 808
kumuda- (白蓮華) 589, 807
kumbha- (水瓶) 635
kuvaleśaya- (青蓮華に横たわる者) 590
kṛtakarman- (偉大な行為をなした者) 788
kṛtajña- ([衆生の] 行為を知る者) 82, 532
kṛtalakṣaṇa- (特徴を規定した者) 485
kṛtākṛta- (行為をして行為をしない者) 136
kṛtāgama- (聖典を作った者) 655, 789
kṛtāntakṛt- (クリタ期の終末を作る者 / 行為の終わりをもたらす者) 537
kṛti- (行動/創造) 83
kṛśa- (薄い者=非物質的な者) 837
kṛṣṇa- (神名) 57, 550
keśava- (美髪の人) 23, 648
keśihan- (ケ-シンを殺す者) 649
kratu- (精神力) 448

- krama- (歩み) 79
 krodhakṛtkarṭr- (怒りを作る者 (=悪人) の作り手) 315
 krodhahan- (怒りを滅する者) 314
 kṣama- (有能なる者) 442
 kṣamiām vara- (忍耐力ある者たちの中の最上の者) 919
 kṣara- (変容しやすい者) 480
 kṣāma- (焦げた [色をした] 者) 443, 854
 kṣitiśa- (土地の主) 991
 kṣetrajña- (土地を知る者) 16
 kṣemakṛt- (安穩を作る者) 599
 kṣobhaṇa- (振動させる者) 374
 khaṇḍaparaśu- (壊れた斧をもつ者) 568
 gatisattama- (帰趨の中で最善の者) 566
 gadāgraja- (ガダの兄) 764
 gadādhara- (棍棒を保持する者) 997
 gabhastinemi- (光線を臍にもつ者) 486
 gabhīra- (奥深い者) 543
 gabhīrātman- (奥深い靈魂をもつ者) 937
 garuḍadhvaja- (ガルダを旗印とする者) 354
 gahana- (奥深い者) 383, 544
 guṇabhṛt- (三徳を保持する者) 839
 gupta- (護られた者) 545
 guru- (尊師) 209
 gurutama- (最高の尊師) 210
 guha- ([本性を] 隠す者) 383
 guhya- (秘密) 542
 gopati- (牛飼い) 495, 592
 goptṛ- (保護する者) 496, 593
 govidām pati- (牛飼いたちの主) 188
 govinda- (牛飼い) 187, 539
 gohita- (牛の福祉をもつ者) 591
 grāmañi- (村落の長) 219
 ghr̥tāsīs- (祝福を濯がれた者) 744
 cakragadādhara- (円輪と棍棒を保持する者) 546
 cakrin- (円輪をもつ者) 908, 995
 candanāṅgadin- (梅檀の香りがする腕輪をつけた者) 740
 caturaśra- (四角形の者 / [姿が] 端正な者) 936
 caturātman- (賢明なる靈魂をもつ者) 137, 769
 caturgati- (四つの帰趨をもつ者) 768
 caturdamṣṭra- (四本の牙をもつ者) 139
 caturbāhu- (四本の腕をもつ者) 766
 caturbhāva- (四つの性質をもつ者) 770
 caturbhujā- (四本の腕をもつ者) 140
 caturvedavid- (四ヴェーダを知る者) 771
 caturvyūha- (四つの顕現をもつ者) 138, 767
 caturmūrti- (四つの顕現をもつ者) 765
 candrāmśu- (月光) 281
 cala- ([三界を] 移動する者) 746
 cāṇūrāndhraniśūdana- (ア-ンドラ族のチャ-ヌ-ラを殺す者) 825
 chinnaśaśaya- (疑念を断ち切った者) 623
 jagataḥ setu- (衆生にとっての橋) 288
 jagadādija- (衆生のうち最初に生まれた者) 145

janajanmādi- (人々の誕生の起源) 947
janana- ([衆生を] 生み出す者) 946
janārdana- (人々を苦しめる者) 126
janeśvara- (人々にとっての主宰者)
341
janmamṛtyujarātiga- (出生と死と老衰
を超越する者) 966
jaya- (勝利) 509
jyanta- ([常に] 勝利する者) 798
jahnu- 〈固有名詞〉 244
jitakrodha- (怒りに打ち勝った者) 460
jitamanyu- (怒りに打ち勝った者) 934
jitāmītra- (敵を征服した者) 524
jīva- (生きている者/命/魂) 513
jīvana- ([衆生を] 生かす者) 930
jetr- (勝者) 148
jñānagamyā- (知識によって到達され
る者) 497
jñānam uttama- (最上の知識) 454
jyestha- (最も年上の者) 67
jyoti-, āditya- (輝かしい太陽) 564
jyotirgaṇeśvara- (恒星の集まりの主宰
者) 619
jyotis- (光輝) 877
tattva- (真理) 963
tattvavid- (真理を知る者) 964
tad- (それ) 731
tantuvaradhana- (縦糸 (／血統) を張り
巡らせる者) 785
tāra- (堤) 338, 968
tāraṇa- ([船で河を] 渡らせる者) 337
tīrthakara- ([彼岸への] 渡し場を作る
者) 691
tuṣṭa- (歓喜した/満足した者) 391
tejo vṛṣa- (光熱力たる雄牛) 757

trikakubdhāman- (三方向を住居とする
者) 61
tridaśadhyaṅga- (三十神の監督者) 535
tripada- (三歩をなす者/三脚から成
る者/三語をもつ者) 534
trilokadhṛt- (三界の保持者) 751
trilokātman- (三界を靈魂にもつ者)
646
trilokeśa- (三界の主) 647
trivikrama- (三歩の闊歩をなす者) 530
trisāman- (三つの歌詠をもつ者) 574
tvaṣṭṛ- (工匠) 52
dakṣa- (巧みな者) 423, 917
dakṣiṇa- (巧みな者) 918
daṇḍa- (刑罰, 棍棒) 859
darpada- (自負心を与える者) 713
darpahan- (傲慢さを滅した者) 712
dama- (調教) 861
damana- (調教者) 190
damayitṛ- (調教者) 860
damodara- (腹に綱を巻く者) 367
dāruṇa- (残忍な者) 569
dāsārha- (ダシヤールハ族出身の者)
511
divasprś- (天界に触れる者) 571
diśa- (方位) 940
dīptamūrti- (輝く顕現をもつ者) 719
duratikrama- (超越しがたい者) 776
durādharṣa- (攻撃し難い者) 81
durārihan- (悪い敵を殺す者(?)) 781
durāvāsa- ([その住居に] 住みがたい
者) 780
durga- (近づきがたい者) 779
durgama- (到達しがたい者) 778
durjaya- (打ち勝ち難い者) 775

- durdhara- (保持し難い者) 266, 715
 durmarṣaṇa- ([悪魔にとって] 容赦し
 難い者) 205
 durlabha- (獲得しがたい者) 777
 duṣkṛtihan- (悪行を滅する者) 924
 duḥsvapnānāśana- (悪夢を滅する者)
 926
 dṛḍha- (堅固な者) 551
 dṛpta- (誇り高い者) 714
 deva- (神) 375
 devabhṛd guru- (神々を保持する尊
 師) 493
 deveśa- (神々の主) 492
 dyutidhara- (輝きを保持する者) 758
 draviṇaprada- (資産を与える者) 570
 dhanamjaya- (財産を勝ち取る者) 660
 dhanurdhara- (弓を保持する者) 857
 dhanurveda- (弓の技術をもつ者) 858
 dhaneśvara- (財産の主宰者) 474
 dhanya- (裕福な者) 754
 dhanvin- (弓をもつ者) 76
 dharaṇīdhara- (大地を保持する象)
 235
 dharādharma- (大地を保持する者) 756
 dharmakṛt- (正法の作り手) 476
 dharmagup- (正法の護り手) 475
 dharmayūpa- (正法の柱) 438
 dharmaviduttama- (正法を知る者たち
 の中で最上の者) 404
 dharmādhyakṣa- (正法の監督者) 135
 dharmin- (正法をもつ者) 477
 dhātur uttama- (最上の定置者) 45
 dhātṛ- (定置者) 43, 951
 dhāman- (住居／光輝) 211
 dhurya- (牽牛) 329
 dhurva- (不動の者) 388
 dhṛtātman- (堅固な靈魂をもつ者) 160
 nakṣatranemi- (星宿の臍) 440
 nakṣatrin- (星宿の主 (=月)) 441
 nanda- (喜び) 528
 nandakin- (ナンダカ [という名の剣]
 をもつ者) 994
 nandana- (喜ぶ者) 527
 nandi- (喜び) 618
 nandin- (歓喜をもつ者) [560]
 naya- (道理) 399
 nara- (固有名詞) / ([理想的な]
 男) 246
 nahuṣa- (固有名詞) 312
 nārasimhavapus- (人獅子の肉体をもつ
 者) 21
 nārāyaṇa- (神名) 245
 nigraha- (捕らえる者) 761
 nirguṇa- (属性をもたない者) 840
 naikakarmakṛt- (多くの行為をなす
 者) 469
 naikamāya- (多くの幻力を駆使する
 者) 302
 naikātman- (多くの靈魂をもつ者) 468
 nidhir avyaya- (不滅の蔵) 30
 nimiṣa- (まばたき) 214
 niyanṭṛ- (節制する者) 864
 niyama- (節制) 161, 865
 nirvāṇa- (涅槃)
 nirvṛttāman- (靈魂を帰還させた者)
 229, 597
 niṣṭhā- (専心) 583
 netṛ- (導師) 222
 neya- ([最終的に] 導かれるべき者)
 398

- naika- (多者) 726
- naikada- (多くのものを与える者) 890
- naikarūpa- (多くの姿をとる者) 271
- naikaśṛṅga- (多くの角をもつ者) 763
- nyagrodha- (〈樹木名〉イチジクの一
種) 822
- nyāya- (正理) 221
- paṇa- (賭け金／〈貨幣の単位〉パ
ナ)) 958
- padam anuttama- (最上の語) 732
- padmagarbha- (蓮華を母胎とする者)
348
- padmanābha- (蓮華を臍にもつ者) 48,
196, 346
- padmanibheksaṇa- (蓮華に似た眼をも
つ者) 345
- padmin- (蓮華をもつ者) 344
- paramaspaṣṭa- (最も [声が] 明瞭な
者) 390
- paramātman- (最高の靈魂) 11
- parameśvara- (至高の主宰者) 377
- parameṣṭhin- (最上の者) 419
- pararddhi- (最高の繁栄をもつ者) 389
- parāyaṇa- (最終目的, 帰依所) 585
- parigraha- ([内部に] 取り入れる者)
420
- parjanya- (雲) 810
- pariyavasthita- (遍満した者) 931
- pavana- (風／浄化具) 291
- pavitra- (浄化具) 62
- pāpanāśana- (罪業を滅する者) 992
- pāvana- (清める者) 292, 811
- puṇḍarikākṣa- (白蓮という眼をもつ
者) 111
- puṇya- (福德, 功德) 687, 925
- puṇyakīrti- (福德あるとの名声をもつ
者) 688
- puṇyaśravaṇakīrtana- ([その名を] 聴
くこと・称えることに福德ある者)
922
- punarvasu- (利益を取り戻す者) 150
- puramḍara- (要塞の破壊者) 335
- purātana- (古 (いにしえ) の者)
- purujit- (多数を征服する者) 506
- puruṣa- (真人) 14, 406
- puruṣottama- (人の中で最上の者) 24
- purusattama- (格別に特上の者) 507
- puṣkarākṣa- (青蓮華という眼をもつ
者) 40, 556
- puṣṭa- (愛育された者) 392
- puṣpahāsa- (花の笑いをもつ者) 952
- pūtātman- (清浄なる靈魂) 10
- pūrayiṭṭ- (満足させる者) 686
- pūrṇa- (満たされた者) 685
- ṛṭhu- 〈固有名詞〉 410
- peśala- (優美な者) 916
- prakāśana- (照らす者) 274
- prakāśātman- (照明という靈魂をもつ
者) 276
- pragraha- (持つ者) 760
- prajāgara- (見張る者) 953
- prajāpati- (生類の祖) 69, 197
- prajābhava- (生類を生み出す者)
- praṇava- (聖音オン) 409, 957
- pratardana- (破壊者) 59
- pratāpana- (熱する者) 277
- pratiṣṭhita- (安立した者) 326
- pratyaya- (原因) 93
- prathita- (著名な者) 319
- pradyumna- (強力な者) 640

pradhānapuruṣeśvara- (根本物質と真人の統率者) 20	brahmaavid- (ブラフマンを知る者) 666
prapitāmaha- ([父方の] 曾祖父) 970	brahmavivardhana- (ブラフマンを増強する者) 665
prabhava- (先祖) 34	brahmin- (ブラフマンを有する者) 668
prabhu- (主) 35, 299	brāhmaṇa- (ブラフマンに携わる者, バラモン) 667
prabhūta- (有能な者) 60	brāhmaṇapriya- (バラモンのお気に入り) 670
pramāṇa- (判断根拠) 428, 959	bhaktavatsala- (感服者に対して [親としての] 愛情をもつ者) 736
pramodana- (歓喜させる者) 525	bhagavat- (恩寵/福に満ちあふれる者, 福満者) 558
prasannātman- (清浄な靈魂をもつ者) 237	bhagahā- (分け前/福を喜捨する者) 559
prāgvaṃśa- (最初の家系である者) 845	bhayakṛt- (恐怖の作り手) 833
prāṇa- (氣息) 66, 320, 407	bhayanāśana- (恐怖を滅する者) 834
prāṇada- (氣息を与える者) 65, 321, 408, 956	bhayāpaha- (恐怖を捨てる者) 935
prāṇanilaya- (氣息の住所) 960	bhartṛ- (保持者) 33
prāṃśu- (背の高い者) 153	bhānu- (光明) 284
priyakṛt- (敬愛の作り手) 874	bhārabhṛt- (荷物を保持する者) 847
priyārha- (敬愛に値する者) 872	bhāva- (存在者) 7
pṛitivardhana- (喜びを増大させる者) 875	bhāvana- (生み出す者) 32
babhru- (褐色の者) 116	bhāskaradyuti- (太陽の輝きをもつ者) 282
bahuśiras- (多くの頭をもつ者) 115	bhīṣaj- (医師) 579
bījam avyaya- (不滅の種子) 429	bhīma- 〈固有名詞〉 357, 948
bṛhat- (巨大な者) 836	bhīmaparākrama- (恐ろしい武勇をもつ者) 949
bṛhadrūpa- (巨大な姿をとる者) 272	bhujagottama- (最高の蛇) 193
bṛhadbhānu- (巨大な輝きをもつ者) 333	bhū- (大地) 437
brahmakṛt- (ブラフマンを作る者) 662	bhūgarbha- (大地の母胎) 71
brahmajña- (ブラフマンを知る者) 669	bhūtakṛt- (存在物の作者) 5
brahmaṇ- (梵天 m.) 663	
brahmaṇ- (真言の実現力 n.) 664	
brahmaṇya- (ブラフマンに由来する者) 661	

bhūtabhavyabhavatprabhu- (過去・未来・現在の主) 4
bhūtabhavyabhavannātha- (過去・未来・現在の統率者) 290
bhūtabhāvana- (存在物を生み出す者) 9
bhūtabhṛt- (存在物の扶養者) 6
bhūtamahaśvara- (存在物の偉大な帝王) 489
bhūtavāsa- (存在物の住まい) 708
bhūtātman- (存在物の靈魂) 8
bhūtādi- (存在物の祖) 29
bhūti- (幸運) 630
bhūr bhuvas (大地にとっての大地) 942
bhūridakṣiṇa- (気前よく与える者) 502
bhūrbhuvahṣvastaru- (ブール・ブヴァ^ハ・スヴァ^ハを樹木とする者) 967
bhūśaya- (大地に寝そべる者) 628
bhūśaṇa- (装飾) 629
bheśaja- (薬) 578
bhoktr- (食べる者) 143, 500, 888
bhojana- (食物) 142
bhrājīṣṇu- (輝かしい者) 141
maṅgalaṃ para- (最高に縁起の良い者) 63
madhu- (蜜) 168
madhusūdana- (マドゥの殺害者) 73
manu- (人類の始祖) 51
manojava- (心のように速い者) 690
manohara- (魅力的な者) 461
mantra- (真言) 280
marīci- (神名) 189
mahat- (大 = mahābhūta) 841

maharddhi- (大きな繁栄をもつ者) 350
maharṣi-, kapilācārya- (大聖仙カピラ阿闍梨) 531
mahākarma- (偉大な行為をなす者) 672, 787
mahākośa- (大きな^{きこ}鞘) 432
mahākratu- (偉大な精神力をもつ者) 675
mahākrama- (偉大な闊歩をなす者) 671
mahākṣa- (大きな眼をもつ者) 353
mahāgarta- (大きな洞窟) 804
mahātapas- (偉大な苦行をなす者 / 大きな熱力をもつ者) 122
mahātejas- (偉大な光熱力をもつ者) 673
mahādeva- (偉大な神) 491
mahādyuti- (大きな輝きをもつ者) 176
mahādhana- (大きな財産) 434
mahādhridhṛk- (巨大な山を保持する者) 180
mahānidhi- (大きな蔵) 806
mahābala- (大きな戦闘力をもつ者) 172
mahābuddhi- (大きな理解力をもつ者) 173
mahābhūta- (偉大な存在物, 大元素) 805
mahābhoga- (大きな日用品) 433
mahābhāga- (大きな恩寵 / 福をもつ者) 370
mahāmakha- (大きな祭式) 439

mahāmanas- (偉大な思考力をもつ者) 557	muktānām paramā gati- (解脱者たちの最高の帰趨) 12
mahāmāya- (大きな幻力をもつ者) 170	mukunda- (固有名詞)
mahāmūrti (偉大な顕現をもつ者) 718	medinīpati- (大地の主) 533
mahāyajña- (偉大な祭祀をなす者) 677	medhāvin- (叡智ある者) 77
mahāyajvan- (偉大な祭官) 676	yajña- (祭祀) 445, 971
mahārha- (崇拝に値する偉大な者) 522	yajñakṛt- (祭祀執行者) 977
mahāvarāha- (大きな猪) 538	yajñaguhya- (祭祀の秘密) 982
mahāvīrya- (大きな勇気をもつ者) 174	yajñapati- (祭祀の主神) 972
mahāsakti- (大きな能力をもつ者) 175	yajñabhuj- (供物を食べる者) 979
mahāśṛṅga- (大きな角／牙をもつ者) 536	yajñabhṛt- (祭祀の保持者) 976
mahāsvana- (大きな音を出す者) 41	yajñavāhana- (供物を運ぶ者＝火) 975
mahāhavis- (偉大な焼き供をもつ者) 678	yajñasādhana- (祭祀の手段) 980
mahāhrada- (大きな湖) 803	yajñāṅga- (祭祀を体肢とする者) 974
mahādhara- (大地の保持者) 317, 369	yajñāntakṛt- (祭祀の果報の作り手) 981
mahābharṭṛ- (大地を保持する者) 182	yajñin- (祭主)
mahejya- (偉大な祭られるべき者) 447	yajvan- (祭官) 973
mahendra- (偉大な帝王) 268	yad- (～である者) 730
maheśvāsa- (大きな弓をもつ者) 181	yaduśreṣṭha- (ヤドゥ族の中の最勝者) 705
mahotsava- (大きな祝祭) 171	yama- (禁戒) 162, 866
mahodadhīśaya- (大海に横たわる者) 519	yugādikṛt- (ユガ等の作り手) 300
mahoraga- (偉大な蛇) 674	yugāvarta- (ユガの巡りをもたらす者) 301
mādhava- (マドゥ族の後裔) 72, 167, 735	yoga- (実習) 18
mānada- (誇りを与える者) 748	yogavidāṃ netr- (実修を知る者たちの導師) 19
mānya- (尊敬に値する者) 749	yogin- (実修者) 849
mārga- (道) 365, 397	yogīśa- (実修者の主) 850
	rakṣaṇa- (守護者) 928
	raṇapriya- (合戦のお気に入り) 684
	ratnagarbha- (宝石を母胎にもつ者) 473
	ratnanābha- (宝石を臍にもつ者) 793

rathāṅgapāṇi- (車輪の一部を手にもつ者) 998
ravilocana- (太陽という眼をもつ者) 885
rāma- (固有名詞) 394
rucirāṅgada- (魅力的な腕輪をもつ者) 945
rudra- (神名) 114
rohita- (栗色の馬) 364
lakṣmī- (神名) 943
lakṣmīvat- (ラクシュミーに満ちあふれる者) 361
lokatrayāśraya- (三界の拠り所) 614
lokanātha- (世間の統率者) 734
lokabandhu- (世間を親類としてもつ者) 733
lokaśāraṅga- (世間におけるカモシカ) 783
lokasvāmin- (世間の所有者) 750
lokādhiṣṭhāna- (世間の拠り所) 894
lokādhyakṣa- (世間の監督者) 133
lohitākṣa- (眼が赤い者) 58
vatsara- (年) 470
vatsala- ([親としての] 愛情を抱く者) 471
vatsin- (子牛をもつ者) 472
vanamālin- (野生の花の環をかけた者) 561
vaṃśavardhana- (家系を繁栄させる者) 846
varada- (願いを叶える者) 330
varāṅga- (勝れた体肢をもつ者) 739
varāroha- (最上の懐をもつ者) 121
varaṇa- (神名) 553
vardhana- (繁栄させる者) 261

vardhamāna- (繁栄させている者) 262
vaṣatkāra- (ヴァシャットという音声) 3
vasu (神名) 104, 270, 696
vasuda- (財産を与える者) 269
vasuprada- (富を与える者) 693, 694
vasumanas- (富の [ように豊かな] 心をもつ者) 105, 697
vasuretas- (黄金の精子をもつ者) 692
vahni- (火神アグニ) 233
vāgmin- (雄弁な者) 267
vācaspatir ayonija- (母胎から生まれた者ではない言葉の主) 573
vācaspatir udārādhi- (勝れた洞察力をもつ言葉の主) 217
vājasana- (競争で勝つ者) 796
vāmana- ([体の] 小さな者) 152
vāyu- (風) 414
vāyuvāhana- (風を運ぶ者=ガルダ鳥) 331, 856
vāruṇa- (ヴァルナの子) 554
vāsavānuja- (ヴァーサヴァの弟)
vāsudeva- (神名) 332, 695, 709
vikartṛ- (変化せしめる者) 381
vikrama- (闊歩) 78
vikramin- (闊歩をなす者/勇気ある者) 75, 909
vikṣara- (流入) 363
vijaya- (征服) 147
vijitāman- (靈魂を征服した者) 620
vidāraṇa- (引き裂く者) 464
vidiśa- (四方の中間の方位) 938
vidvattama- (最上の学者) 920
vidheyātman- (靈魂を定置した者) 621
vidhātṛ (規定者) 44

- vinaya- (慎み) 506
 vinayitr-, sākṣin- (慎む者にして監視者) 514
 vibhu- (異なる形で現われる者) 240, 880
 vimuktātman- (解脱した靈魂をもつ者) 452
 virata- ([欲を] 厭離した者) 396
 virāma- (終結) 395
 vivikta- ([欲望から] 離れた者) 263
 viśiṣṭa- (傑出した者) 249, 309
 viśuddhātman- (浄化した靈魂をもつ者) 636
 viśoka- (苦悩のない者) 631
 viśodhana- (浄化する者) 637
 viśrāma- (安穩) 424
 viśrutātman- (幸福な靈魂をもつ者) 207
 viśva- (あらゆる者／万物) 1
 viśvakarman- (あらゆるものの形成をなす者／造万物者) 50
 viśvadakṣiṇa- (あらゆることに巧みな者) 425
 viśvabāhu- (あらゆる [救いの] 手をもつ者) 316
 viśvabhuj- (あらゆるものを享受する者) 239
 viśvadhṛk- (あらゆるものを保持する者) 238
 viśvamūrti- (あらゆる者の顕現) 717
 viśvayoni- (あらゆる者の母胎) 117, 149
 viśvaretas- (あらゆる者の精子) 88
 viśvātman- (あらゆる者の靈魂) 225
 viṣṇu- 〈神名〉 2, 258, 657
 vidhātṛ- (規定する者) 484
 viṣama- (不平等な者) 742
 viṣvaksena- (あらゆる方向に軍隊を配置する者) 125
 vistāra- (巨大化 [する者]) 426
 vihāyasagati- (鳥の帰趨をもつ者) 876
 vītabhaya- (恐怖の消えた者) 921
 vīra- (勇者) 401, 643, 658
 vīrabāhu- (勇者の腕をもつ者) 463
 vīrahan- (勇者を殺す者) 166, 741, 927
 vṛkṣa- (樹木) 555
 vṛddhātman- (成熟した靈魂をもつ者) 352
 vṛṣa- (牡牛) 313
 vṛṣakarman- (雄牛の行動を為す者) 112
 vṛṣaparvaṇ- (力強い関節をもつ者) 259
 vṛṣapriya- (雄牛のお気に入り) 595
 vṛṣabha- (雄牛) 257
 vṛṣabhākṣa- (雄牛の目をもつ者) 594
 vṛṣākapi- 〈猿王の名〉 101
 vṛṣākṛti- (雄牛の姿をとる者) 113
 vṛṣāhī- (語義不明) 256
 vṛṣodara- (雄牛の内臓をもつ者) 260
 vegavat- (激烈なる者) 371
 veda- (知っている者／ヴェーダ聖典) 127
 vedavid- (ヴェーダを知る者) 128, 131
 vedāṅga- (ヴェーダ補助学) 130
 vedya- (知られるべき者) 163
 vedhas- (敬虔なる者) 547
 vaikuṅtha- (ヴィクンタ天に属する者) 405
 vaikhāna- (掘る者 (?)) 987

vaidya- (学問に通じた者) 164
 vyaktarūpa- (姿を現す者) 305
 vyavasāya- (決意／誓願) 384
 vyavasthāna- (安置する者) 385
 vyādiśa- ([神々に] 命令する者) 939
 vyāpin- (浸透する者) 467
 vyāpta- (浸透した者) 413
 vyāla- (蛇) 92
 śaktimatām śreṣṭha- (能力をもつ者たち
 の中で最上の者) 402
 śaṅkhabhṛt- (法螺貝を保持する者)
 993
 śatamūrti- (百の顕現をもつ者) 723
 śatānana- (百の顔をもつ者) 724
 śatānanda- (百の歓喜をもつ者) 617
 śatāvarta- (百の転生をもつ者) 343
 śatruḡhna- (敵を殺す者) 412
 śatrujit- (敵に勝利する者) 820
 śatrutāpana- (敵を苦しめる者) 821
 śabdasaha- ([いかなる] 言葉も耐え忍
 ぶ者) 912
 śabdātiga- (言葉を超える者) 911
 śama- (平静) 581
 śambhu- (慈善者) 38
 śaraṇa- (拠り所) 86
 śarabha- (鹿の一種) 356
 śarīrabhūtabhṛt- (肉体の元素を保持す
 る者) 499
 śarīrabhṛt- (肉体を保持する者) 349
 śarmaṇ- (幸福) 87
 śarva- (射手) 26
 śarvarīkara- (星空を作る者) 914
 śaśabindu- (兎の影像をもつ者=月)
 285
 śānta- (寂静な者) 582

śānti- (寂静) 584
 śāntida- (寂静を与える者) 587
 śārṅgadhanvan- (角で作られた弓をも
 つ者) 996
 śāstr- (教師) 206
 śāśvata- (永遠の者) 56
 śāśvatashira- (永遠に動かない者)
 śāśvataḡ sthāṇu- (永遠に安定した者)
 120
 śikhāṇḡin- (冠毛のある者) 311
 śipiviṣṭa- (語義不明) 273
 śiśira- (寒冷季) 913
 śiṣṭakṛt- (教養人を作る者) 250
 śiṣṭeṣṭa- (教養人の信愛する者) 310
 śiva- (吉祥者) 27, 600
 śuci- (清浄) 155, 251
 śuciśravas- (清浄なる名声をもつ者)
 118
 śubhāṅga- (美しい肢体をもつ者) 586,
 782
 śubheksaṇa- (美しい眼をもつ者) 393
 śūnya- (空なる者) 743
 śūra- (勇者) 339, 644
 śūrasena- (勇者から成る軍隊をもつ
 者) 704
 śṛṅgin- (角をもつ者) 797
 śokanāśana- (苦悩を滅する者) 632
 śauri- (シュウラ族出身の者) 340
 śauri-, jāneśvara- (シュウラ族出身の人
 民の主宰者) 645
 śramaṇa- (修行者, 沙門) 853
 śrīkara- (シュリーを作る者) 611
 śrīgarbha- (シュリーを母胎にもつ者)
 376
 śrīda- (シュリーを与える者) 605

- śrīdhara- (シュリーを保持する者) 610
 śrīnidhi- (シュリーの蔵) 608
 śrīnivāsa- (シュリーの住居) 183, 607
 śrīmat- (シュリーに満ちあふれる者)
 22, 178, 220, 613
 śrīmatām vara- (神々たちの中の最上
 の者) 604
 śrīvatsavakṣas- (シュリーヴァツツアを
 胸に描いた者) 601
 śrīvāsa- (シュリーの住居である者)
 602
 śrīvibhāvana- (シュリーを顕現させる
 者) 609
 śrīśa- (シュリーの主) 606
 śrutisāgara- (ヴェーダの海をもつ者)
 264
 śreyas- (優れた者) 612
 śreṣṭha- (最も勝れた者) 68
 satām gati- (聖者たちの帰趨) 184, 450
 sat- (存在／真) 478
 satkarṭṛ- (敬礼する者) 241
 satkīrti- (聖者という (／善い) 名声
 をもつ者) 622
 satkṛta- (敬礼された者) 242
 satkṛti- (聖者たちの行為をもつ者)
 700
 sattā- (聖性／聖者性) 701
 sattra- 〈祭式名〉 449
 sattvavat- (純質を有する者) 867
 sattvastha- (純質に住する者) 487
 satpathācāra- (聖者の道を行儀とする
 者) 955
 satparāyaṇa- (聖者たちの抛り所) 703
 satya- (真実) 106, 212, 869
 satyadharman- (真実の正法をもつ者)
 529
 satyadharmaparākrama- (真実の正法に
 基づく勇敢さをもつ者) 289
 satyadharmaparāyaṇa- (真実の正法の抛
 り所) 870
 satyaparākrama- (真実の勇敢さをもつ
 者) 213
 satyamedhas- (真実の知性をもつ者)
 755
 satyasamdha- (真実の協定を結ぶ者)
 510
 sadāmaṛṣin- (常に耐え忍ぶ者) 893
 sadāyogin- (常に実修している者) 165
 sadgati- (聖者たちの帰趨) 699
 sadbhūti- (聖者たちの幸運をもつ者)
 702
 sanāt- (太古の者) 896
 sanātanatama- (最古の者) 897
 santa- (聖者) 929
 sannivāsa- (聖者たちの宿) 706
 saptajihva- (七つの舌を持つ者＝火)
 827
 saptavāhana- (七頭の馬をもつ者) 829
 saptaidhas- (七つの燃料をもつ者) 828
 sama- (平静／平等な者) 109
 samayañña- (平等に供犠を行なう者)
 358
 samātman- (平等な靈魂をもつ者) 107
 samāvarta- (帰る者) 773
 samitiṃjaya- (戦闘に勝つ者) 362
 samīraṇa- (かきたてる者) 223
 samīhana- (尽力する者) 444
 saṃkarṣana-, acyuta- (引き寄せる不滅
 の者) 552

samkṣeptr- (収縮させる者) 598
saṃgraha- (攝取) 158
saṃdhimat- (友好関係をもつ者) 202
saṃdhātṛ- (結合する者) 201
saṃnyāsakṛt- (放下(ほうげ)をなす者)
580
saṃpramardana- ([悪魔を] 粉碎する
者) 231
saṃbhava- (出生) 31
saṃvatsara- (年) 91, 422
saṃvṛta- ([欲望を] 抑えた者) 230
saṃsthāna- (共に住む者) 386
sarga- (創造) 159
sarva- (一切) 25
sarvaga- (一切に浸透する者) 123
sarvajña- (一切を知る者) 453, 815
sarvataścaḥsus- (一切の方向に眼を配
る者) 625
sarvatomukha- (一切の方向に顔を向け
る者) 816
sarvadarśin- (一切を見る者) 451
sarvadṛś- (一切を見る者) 199
sarvadṛś-, vyāsa- (一切を見る配列者
(ヴァヤサ)) 572
sarvadarśana- (一切を見る者) 94
sarvaprāharaṇāyudha- (一切の剣を武器
としてもつ者) 1000
sarvayoganiniḥṣṛta- (全ての束縛から逃
れた者) 103
sarvalakṣaṇalakṣaṇya- (一切の特徴に
よって特徴づけられる者) 360
sarvavāgīśvareśvara- (一切の雄弁なる
者たちの中の主宰者) 802
sarvavij jayin- (一切を知る勝者) 799

sarvavidbhānu- (一切を知る光明をも
つ者) 124
sarvaśāstrabhṛtām vara- (一切の武器を
保持する者の中で最上の者) 759
sarvasaha- (一切が可能なる者) 863
sarvādi- (一切のものの始まり) 99
sarvāsūnilaya- (一切の氣息の住居)
710
sarveśvara- (一切の者にとっての主宰
者) 96
sava- (刺激者/圧搾/祭式) 727
savitr- 〈神名〉 884, 969
saha- (耐え忍ぶ者) 368
sahasrajit- (千 [の敵] に勝利する
者) 306
sahasrapad- (千の足をもつ者) 227
sahasramūrdhan- (千の頭をもつ者)
224
sahasrārcis- (千の光線をもつ者) 826
sahasrākṣa- (千の眼をもつ者) 226
sahasrāṃśu- (千の光線をもつ者 (=太
陽)) 483
sahiṣṇu- (忍耐強い者) 144, 565
sākṣin- ([全てを] 見通す者) 15
sāttvika- (純質性の者) 868
sātvatām pati- (サートヴァト族の主)
sādhu- (聖者) 243
sāмага- (歌詠を歌う者) 575
sāman- (歌詠) 576
siddha- (成就者) 97, 819
siddhasaṃkalpa- (決意を実現した者)
253
siddhārtha- (目的を成就した者) 252
siddhi- (成就/効験) 98
siddhida- (成就を与える者) 254

- siddhisādhana- (成就を実現する者)
255
- siṃha- (獅子) 200, 488
- sukhada- (幸福感を与える者) 459,
889
- sughoṣa- (良い咆哮をなす者) 458
- sutantu- (良い血統をもつ者) 784
- sutapas- (よく苦行をなす者) 195
- sudhanvan- (良い弓をもつ者) 567
- sudarśana- (見目麗しい) 417
- sunda- 〈神名〉 792
- sundara- (見目麗しい者) 791
- suparṇa- (〈鳥名〉 鷲) 192, 855
- suprasāda- (良い恩恵をもたらす者)
236
- subhujā- (良い腕をもつ者) 265
- sumukha- (良い顔をした者) 456
- sumedhas- (良い知性をもつ者) 752
- suyāmuna- (ヤムナー河出身の良い者)
707
- surādhyakṣa- (神々の監督者) 134
- surānanda- (神々に歓喜を与える者)
186
- surārihan- (神々の敵を殺す者) 208
- suruci- (良い輝き／好みをもつ者)
878
- sureśa- (神々の主) 85
- sureśvara- (神々にとっての主宰者)
286
- sulabha- (容易に獲得できる者) 817
- sulocana- (良い眼をもつ者) 794
- suvarṇabindu- (黄金の印をもつ者)
800
- suvarṇavarṇa- (黄金の色をもつ者)
737
- suvīra- (良い勇者) 944
- suvrata- (良い誓戒をもつ者) 455, 818
- suṣeṇa- (良い飛び道具をもつ者) 540
- suhṛd- (良い心をもつ者／友) 460
- sūkṣma- (微細な者) 457
- sūrya- (太陽)
- soma- (祭りに用いられる特定の液体)
505
- somapa- (ソーマを飲む者) 503
- skanda- 〈神名〉 327
- skandadhara- (スカンダを保持する者)
328
- stavapriya- (讃歌のお気に入り) 680
- stavya- (讃歌に値する者) 679
- stotr- (讃歌詠唱者) 683
- stotra (讃歌) 681
- sthavīro dhruva- (永遠の尊者) 54
- sthaviṣṭha- (巨大な者) 53, 436
- sthāṇu- (安定した者) 28
- sthānada- (住まいを与える者) 387
- sthāvarasthāṇu- (永遠に安定した者)
427
- sthira- (動かない者) 203
- sthūla- (良い体格の者) 838
- spāṣṭākṣara- (明確な発音をする者)
279
- sragvin- (花環をかけた者) 216
- sraṣṭṛ- (創造者) 588, 990
- svakṣa- (良い眼をもつ者) 615
- svaṅga- (良い体肢をもつ者) 616
- svadhṛta- (自身のみで保持される者)
843
- svavaśa- (自律している者) 466
- svayamjāta- (独りで生まれる者) 986
- svayambhū- (独りで生じる者) 37

svasti- (安寧) 903	havirhari- (焼き供のように黄褐色の者) 359
svastikṛt- (安寧の作り手) 902	havis- (焼き供) 698
svastida- (安寧を与える者) 901	hiraṇyagarbha- (黄金の胎児) 70, 411
svastidakṣiṇa- (安寧に対して巧みな者) 905	hiraṇyanābha- (黄金の臍をもつ者) 194
svastibhuj- (安寧を享受する者) 904	hutabhuj- (焼き供を食べる者) 879, 887
svāṅga- (自身を肢分とする者) 548	hṛṣīkeśa- (髪が逆立った者) 47
svāpana- (眠らせる者) 465	hetu- (原因) 366
svābhāvya- (自性に由来する者) 523	hemāṅga- (金の体肢をもつ者) 738
svāśya- (良い顔をもつ者) 844	
haṃsa- 〈鳥名〉 191	
hari- 〈神名〉 650	
halāyudha- (鋤(すき)を武器としてもつ者) 562	

(三康文化研究所研究員, 淑徳大学長谷川仏教文化研究所専任研究員)